

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密  
又は防護上の観点から公開できません。

※既提出資料からの修正箇所は黄ハッチで示す。

敦賀発電所2号炉  
敷地の地形，地質・地質構造  
K断層と原子炉建屋直下を通過する  
破砕帯との連続性

補足説明資料3  
ボーリング柱状図・コア写真

令和6年3月22日  
日本原子力発電株式会社

余白

- 本資料は、K断層の連続性に関わる14孔についてボーリング掘削後に作成されたコア観察カードに基づき、ボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として取りまとめたものである。
- なお、コア観察カードに記載されている断層名、破碎帯名については、観察者の見立てであることからボーリング柱状図に記載することとし、その断層名、破碎帯名の妥当性については、「敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について(K断層と原子炉建屋直下を通過する破碎帯との連続性)」の連続性評価結果及び連続性確認結果で検討する。
- ボーリング柱状図は、一般社団法人全国地質調査業協会連合会社会基盤情報標準化委員会の「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説 平成27年6月」に基づき作成した。
- ボーリング柱状図を踏まえて、破碎帯の連続性評価等の後段の評価のために用いる肉眼観察による断層岩区分の評価のための破碎部性状の詳細観察結果については、「補足説明資料1 破碎部データ」に取りまとめる。

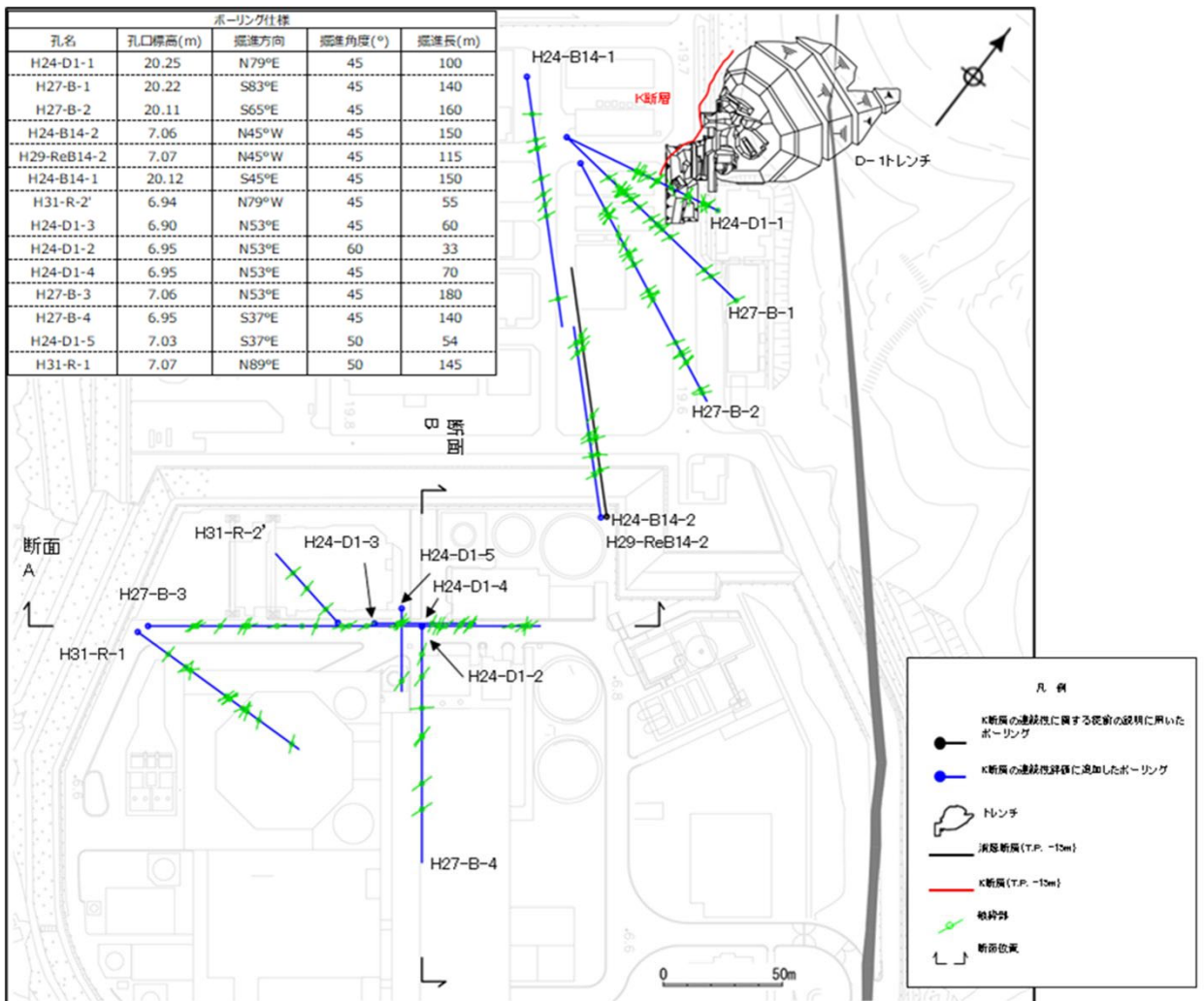
(参考)ボーリング柱状図に反映したコア観察カードに記載されている断層名・破碎帯名

孔名	破碎部深度(m)	コア観察カードにおける 断層名・破碎帯名
H24-D1-1	58.96～59.30	K断層
	60.12～60.15	G断層
H27-B-1	59.82～59.85	D-1
H27-B-2	61.29～61.69	D-1
H24-B14-2	109.16～109.46	D-1破碎帯
H24-D1-3	13.94～14.06	H-3d破碎帯
	14.41～14.52	H-4' 破碎帯
	34.23～34.52	D-1破碎帯
H24-D1-2	12.38～12.97	D-1断層
H24-D1-4	10.91～10.93	D-1破碎帯
H24-D1-5	10.19～10.21	H-3d破碎帯
	10.45～10.50	H-4' 破碎帯
	47.47～47.89	D-1破碎帯



# 目次

ボーリング孔名	頁
H24-D1-1	10
H27-B-1	40
H27-B-2	79
H24-B14-2	123
H29-ReB14-2	165
H24-B14-1	179
H31-R-27'	221
H24-D1-3	230
H24-D1-2	249
H24-D1-4	261
H27-B-3	283
H27-B-4	332
H24-D1-5	371
H31-R-1	388



余白

■柱状図で用いている記号の凡例を以下に示す。

・岩級区分

割れ目の状態	コア形状	硬軟				
		A <sub>g</sub>	B <sub>g</sub>	C <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>
a <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	B'	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
b <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	B'	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	II <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	III <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
c <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	II <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'
d <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'

・硬軟

A <sub>g</sub>	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B <sub>g</sub>	硬質。ハンマーで金属音がする。
C <sub>g</sub>	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
D <sub>g</sub>	軟質。ハンマーで濁音がする。
E <sub>g</sub>	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

・コア形状

I <sub>g</sub>	50cm以上の長柱状
II <sub>g</sub>	20cm以上50cm未満の長柱状
III <sub>g</sub>	10cm以上20cm未満の柱状
IV <sub>g</sub>	3cm以上10cm未満の岩片状～短柱状
V <sub>g</sub>	1cm以上3cm未満の岩片状
VI <sub>g</sub>	1cm未満の土砂状

・割れ目の状態

a <sub>g</sub>	密着, 新鮮
b <sub>g</sub>	酸化鉄付着
c <sub>g</sub>	細粒物質を挟む。
d <sub>g</sub>	割れ目として認識できない。




・風化

α	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
β	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
γ	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
δ	風化している。有色鉱物が黄銅色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
ε	強風化している。石英および一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

・変質

1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの(肉眼で50%以上)。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

・破砕度区分

区分	模様	詳細
Hc-1		粘土状部。 粘土及びシルトを主体とし、少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化している。
Hc-2		礫混じり粘土状部。 粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化が進み軟質化している。
Hb		礫質粘土状部, 粘土質礫状部, 礫質砂状部。 礫を多く含み, 基質は粘土, シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが, 礫は比較的新鮮で硬い。
Hj		粘土混じり礫状部, 粘土混じり岩片状部, 粘土質岩片状部, 砂混じり岩片状部。 粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し, 全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いものから, やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまでである。網目状の粘土細脈が発達することがある。

余白

H24-D1-1

余白

ボーリング柱状図

調査名 [Redacted]  
 事業・工事名 [Redacted]

ボーリングNo.										1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

ボーリング名	H24-D1-1		調査位置	X:338.353 , Y:1103.263			北緯	35° 45' 19.30"			
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013年3月7日～2013年4月22日			東経	136° 1' 1.43"		
調査業者名	[Redacted]		主任技師	現代理人	コシ	ア	ボーリング責任者				
孔口標高	20.25 m	角上	180°	方	北 0°	地盤勾配	使用機種	試験機	ハンマー落下用具		
総掘削長	100.00 m	度下	0°	向	西 270°	船直	エンジン	ポンプ			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入)試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水深参照)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
									0.00~4.33m : 盛土 中粒砂~砂礫からなり、下部ほど礫を多く含む。礫は径2~30mmの花崗斑岩や石英の硬質礫主体である。ルーズな部分が多い。	0 50 100			(0) (10) (20) (30) (40) (50)																
1																													
2																													
3				盛土 細かい黄砂					2.86m : ビニール紐を含む。																				
4									4.33~12.15m : 砂礫主体 4.33~4.97m : 砂礫 径2~5mmの石英粒、径5~80mmの花崗斑岩の亜円~歪角礫を含む。硬質礫が多い。基質はややルーズな中~粗粒砂。礫率30~40%。 4.75m、4.89mに長さ10~20mm、幅5mmの炭化物片を含む。																				
		17.19	4.33																										
		16.74	4.97																										



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位試験 (孔内水平試験)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														0	10	20	30	40												50				
6	16.40	5.45		コア欠如	にぶい黄橙					4.97~5.45m: スライム 灰黄色粘土からなる泥材と粗粒砂からなる。径10mm以下の黒色砂岩の礫を含む。ルーズである。																								
				明褐灰						5.45~6.33m: 礫 径30~280mmの硬質な花崗斑岩の亜角礫からなる。半クサリ〜クサリ礫は分布しない。																								
				砂礫	にぶい黄橙						6.33~6.59m: 砂礫 径2~80mmの花崗斑岩の亜円〜亜角礫の硬質礫と中〜粗粒砂のやや締った基質からなる。礫率は30%前後。所々に未分解で炭化していない草片を含む。																							
				シルト混じり砂	褐灰						6.59~6.72m: シルト混じり細砂 有機質で径1~2mmの石英、長石、岩片を含む。また、炭化物片や未分解の草片も含む。褐色を呈する。やや締っている。																							
				粘土							6.72~6.78m: 粘土 傾斜20°、幅40~50mmの灰色粘土で径10mmの硬質な花崗斑岩の岩片を含む。やや締っている。																							
7	15.77	6.33		砂礫	にぶい黄橙					6.78~7.00m: 礫混じり粗粒砂 径5~30mmの花崗斑岩の亜円礫を多く含む。褐色を呈する。ルーズ。																								
	15.59	6.59		シルト混じり砂						7.00~9.48m: スライム 中〜粗粒砂からなる。均質でルーズ。稀に径60mm以下の花崗斑岩の礫を含む。																								
8	15.50	6.72		粘土																														
	15.46	6.78		砂礫																														
9	15.30	7.00		シルト混じり砂																														
	13.55	9.48		砂礫	にぶい橙					9.48~10.25m: 砂礫 径2~5mmの石英粒。径5~70mmの花崗斑岩の亜円〜亜角礫とルーズな中〜粗粒砂の基質からなる。礫率は30%前後で大半が硬質礫である。基質は全体にやや赤味を帯びる。																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
														( ) 図 N値~深度																													
		13.00	10.25	砂礫	にぶい橙									0	10	20	30	40	50																								
		12.47	11.00	中砂	にぶい黄橙					10.25~11.00m: 中砂 10.25~10.40mは若干の粘土分を含む。 10.30~10.38mは傾斜45°程度で炭化物片を含み有機質である。暗緑灰色を呈する。 10.38m以深は径2~3mmの石英粒、径15~20mm以下の花崗斑岩の半クサリ~クサリ礫を少量含み、よく締っている。10.53~10.55mに炭化物片を含む。																																	
11		12.47	11.00	砂礫	にぶい黄橙					11.00~12.15m: 砂礫 径2~5mmの石英粒、径10~160mmの花崗斑岩の歪円~歪角礫を多く含み、よく締った中~粗粒砂の基質からなる。礫率は40~50%。 11.00~11.05mと11.20~11.27mの基質の一部はマンガン鉱染により黒褐色化する。																																	
		11.66	12.15	砂礫	にぶい黄橙					11.90~12.15mでは径10~20mmの半クサリ礫が主体となる。																																	
13		11.66	12.15	花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	Vg	cg	δ	3																																	
										12.15~100.00m: 花崗斑岩 斑晶は径1~3mmの石英、長石からなる。 12.15~18.10m: 風化によって硬さは「D」または、著しく軟質化した「E」となり、深度10.10m付近まで硬さD (岩種区分D) と硬さE (同D級) をくり返す。ただし、硬さ「E」が主体である。変質粘土化部や粘土脈の分布は少ない。割れ目沿いは風化で砂状化することが多い。割れ目沿いの一部は、マンガン鉱染により黒褐色化する。 全体に原岩組織と割れ目が残留する。傾斜10~30°の割れ目が主体で、一部でこれらに傾斜60~80°の割れ目が交差する。																																	
14						Bg	IVg			14.78~15.10m: 珪質のため硬質部として残留する。																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位試験 (孔内水平膨脹)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
															0	10	20	30	40												50										
16			+				IV <sub>g</sub>				15.54m: 傾斜85° で幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。 15.60~15.74m: 傾斜60~90° で湾曲して連続する割れ目に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。 15.82m: 径8mmの大型な長石斑晶が1つ分布する。	0	D'																												
																																		E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>				
																																						E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>
17			+				V <sub>g</sub>	cg		6	3	0	D'																												
																																E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>						
																																				E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>		
																																								E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>
18			+				VI <sub>g</sub>	dg		6	3	0	D'																												
																																E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>						
																																				E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>		
																																								E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>
19			+				V <sub>g</sub>	cg		6	3	0	D'																												
																																E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>						
																																				E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>		
																																								E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>
			+				VI <sub>g</sub>	dg		6	3	0	D'																												
																																E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>						
																																				E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>		
																																								E <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験						原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ベットの	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																					
															( N値~深度 ) 図																																																																																				
21				にふい黄橙	Eg	Dg	Vg				20.09m付近、傾斜5°で幅5~20mmが淡緑色化する。 20.16~20.19m：上端5°で一部不明瞭、下端15°でほぼ直線的にシャープに連続。幅30~35mmで径5mmの粘土化岩片を多く含む。灰白~にふい黄橙色を呈する。この上位及び下位では、径5~10mmの岩片が主体で粘土化したものが多く、著しく軟質化している。 20.19~20.25m：傾斜0~5°の割れ目が幅6cmで密集し、砂状化するほど風化する。灰褐色を呈する。 20.25~21.04m：原岩組織や割れ目は消滅せずに残留するものが多いが、20.25~20.54mと20.77~21.04mは著しく軟質化し、20.54~20.77mはやや軟質である。傾斜20°前後の割れ目が主体で、幅1~2mmの軟質な灰白色、褐色の粘土脈を挟むことが多い。 20.95~21.94m：傾斜10~30°の風化で消滅しかつた割れ目沿いに幅5~15mmが褐色を呈し、一部で砂状化する。 21.04~24.53m：局所的に割れ目沿いに軟質化が著しくなる部分を含む。割れ目と原岩組織は明瞭に残留する。傾斜10~35°の割れ目が主体で、これらに60~80°の割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅0.5~1mmの灰白~橙色粘土を挟むが、幅広い粘土化部は分布しない。		D'	0	10	20	30	40	50	N																																																																															
																																								22			花崗斑岩	cg	IVg		δ 3	22.77m：傾斜76°で幅2~3mmの軟質な褐色の粘土脈を挟む。面は凹凸がある。		CL'	0	10	20	30	40	50	N																																										
																																																																							23		明燻灰	Dg		23.13m：傾斜58°の割れ目で、交差する高角度割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。また、一部に軟質な幅0.5mmの白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 23.40m：傾斜75~80°で若干湾曲する割れ目と23.41mで交差する傾斜25°の割れ目は開口し、開口部の下端側では2mm程度右方向にズレているように見えるが、上端側では横断する。高角度割れ目には幅0~2mmの暗褐色粘土を挟みながら、粘土は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。		CL'	0	10	20	30	40	50	N														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
																( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																		
26			花崗斑岩	明褐灰	Dg					25.05m : 傾斜35°の割れ目沿いに幅10~20mmが砂状化で一部粘土も含む。 25.12m : 傾斜40°の割れ目で交差する微細な割れ目は止まっている。周囲幅10mmに径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が露出する。また、割れ目に幅0.5mmの軟質な褐色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 25.33m : 傾斜36°で幅5~15mmが砂状化する。白色粘土が混じり、一部マンガニ鉱染を受け黒色化する。	5 10 15 20 25 30 35 40 45 50	CL'																							
27				Eg						26.50m・22°と27.04m・35°の割れ目で囲まれた部分は、全体に軟質化が著しい。一部で幅0.5mmの軟質な白色粘土脈を伴う。原岩組織は残留する。	5 10 15 20 25 30 35 40 45 50	D'																							
28				にんじい褐	Dg		Vg	cg	δ	3	27.21m : 傾斜34°の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場所がある。割れ目沿いに幅1~3mmが砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 27.43m : 傾斜20°程度で幅2~5mmの石英脈を挟む。 27.54~27.64m : 傾斜40°前後の割れ目沿いに風化が進み、著しく軟質化し、一部砂状を呈する。 27.81m : 傾斜32°の割れ目と交差する高角度割れ目が横断する。割れ目は幅1~2mmで砂状化する。割れ目に挟在物は伴わず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 27.81~27.98m : 幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が長さ5~10cmで分布する。 28.14m・34°と28.23m・20°の割れ目で囲まれた部分は風化で著しく軟質化し砂状化~細片化する。一部でマンガニ鉱染を伴う。28.14mに幅1~3mmの赤褐色粘土を挟む。	5 10 15 20 25 30 35 40 45 50	CL'																						
29				明褐灰	Dg						28.68m : 傾斜43°の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場所がある。下端側に幅1~2mmの石英脈を伴う。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 28.76m : 傾斜44°の割れ目で交差する石英脈や割れ目が止まっている場合がある。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	5 10 15 20 25 30 35 40 45 50	CL'																						
				にんじい褐	Eg						29.38~29.93m : 傾斜10~30°の割れ目沿いに風化で軟質化が著しくなり、割れ目周辺では砂状化する。	5 10 15 20 25 30 35 40 45 50	D'																						
			明褐灰	Dg									CL'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	コ	ア	採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
																( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )														
31			花崗斑岩	明褐灰		Dg	Vg			30.12m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅20~30mmが砂状~細片化する。 30.17~30.34m: 傾斜70~80°で湾曲した割れ目が分布し、割れ目を境にコアの上側は硬さ「C」とやや硬質である。	0	50	100			0	10	20	30	40	50										
		30.53~31.54m: 傾斜30~50°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部は風化で消滅しかかり、不明瞭な部分もある。粘土脈や粘土化部は分布しないが、長石が粘土化し白濁化する。																													
		31.13m: 傾斜44°の割れ目の上端側は幅10~20mmが径5~10mmの花崗斑岩の岩片と硬質な砂状部からなる角礫状。下端側は硬質岩片からなり、岩片には傾斜44°の割れ目に對してほぼ直交する傾斜60°の割れ目が分布する。角礫状部は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 31.54~31.94m: 傾斜40~50°の割れ目が主体で、これらは直線的でシャープに連続するものが多い。粘土の挟入はないが、割れ目沿いに薄く砂状化する。																													
		32.14m: 傾斜42°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩によく密着して連続する。 32.24m: 傾斜65°で幅6~20mmの開口割れ目で、砂と径2~3mmの花崗斑岩の岩片が充填する。 32.38~34.03m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、幅30~100mmで砂状~細片化部を互層状に挟む。																													
32			花崗斑岩	明褐灰		Dg	Vg			32.14m: 傾斜42°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩によく密着して連続する。 32.24m: 傾斜65°で幅6~20mmの開口割れ目で、砂と径2~3mmの花崗斑岩の岩片が充填する。 32.38~34.03m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、幅30~100mmで砂状~細片化部を互層状に挟む。	0	50	100			0	10	20	30	40	50										
		33.83~33.97m: 径5~10mmの花崗斑岩の岩片と粘土化した差質からなる。																													
		34.03~34.69m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、34.56mの傾斜40°の割れ目と交差する高角度割れ目には、止まっているものもあり、系統的なズレは見られない。一部では、割れ目沿いに風化で砂状化する。																													
		34.47~34.69m: 白色化するが、粘土化はない。																													
33			花崗斑岩	明褐灰		Dg	Vg			33.83~33.97m: 径5~10mmの花崗斑岩の岩片と粘土化した差質からなる。	0	50	100			0	10	20	30	40	50										
		34.03~34.69m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、34.56mの傾斜40°の割れ目と交差する高角度割れ目には、止まっているものもあり、系統的なズレは見られない。一部では、割れ目沿いに風化で砂状化する。																													
		34.47~34.69m: 白色化するが、粘土化はない。																													
		34.82~34.95m: 傾斜20~30°の割れ目がほぼ平行に数条分布する。色調境界になっている場合が多い。割れ目にマンガが付着するが、細粒部は伴わない。34.82mの割れ目には幅10mm程度でマンガン濃集部を挟むが、マンガン濃集部内の粒子に定向配列はみられない。																													
34			花崗斑岩	明褐灰		Dg	Vg			34.03~34.69m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、34.56mの傾斜40°の割れ目と交差する高角度割れ目には、止まっているものもあり、系統的なズレは見られない。一部では、割れ目沿いに風化で砂状化する。	0	50	100			0	10	20	30	40	50										
		34.47~34.69m: 白色化するが、粘土化はない。																													
		34.82~34.95m: 傾斜20~30°の割れ目がほぼ平行に数条分布する。色調境界になっている場合が多い。割れ目にマンガが付着するが、細粒部は伴わない。34.82mの割れ目には幅10mm程度でマンガン濃集部を挟むが、マンガン濃集部内の粒子に定向配列はみられない。																													

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態 化 質	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 ← ( % ) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 ( m ) 測 定 日 月	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深 度 ) 図					原 位 置 試 験 ( 孔 内 水 平 藍 色 )	室 内 試 験	掘 進 日 月	掘 進 速 度 ( cm / 時 )	孔 径 ( mm ) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ブ / ビ ッ ト	給 圧 ( kN · r p m )	回 転 数 ( r p m )	送 水 圧 ( MPa )	送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )															
													0	10	20	30	40												50														
					明黄褐	Dg			35.26~35.96m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。																																		
	36				明褐灰	Cg			35.96~38.81m: 傾斜10~40°と、これと斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目が主体である。割れ目の一部は砂状を呈する。粘土化や粘土脈の分布はわずかであるが、長石は粘土化し白濁~軟質化する。一部で風化により著しく軟質化する部分も含む。																																		
	37				明黄褐	Vg cg			36.45~36.47m: 上下端35°の割れ目で囲まれ、粘土化が進む。径2~4mmの石英粒や径0.5mm以下の微細な白雲母を含む。淡緑色化し、明オリープ灰色を呈する。																																		
				花崗斑岩	明褐灰	Dg		δ 3	37.10~37.41m: 変質し、黄色味を帯びる。																																		
	38				明褐灰	Dg			38.00m + 45° と 38.14m - 60° の割れ目で囲まれ、全体が径10mm前後の岩片状を呈する。コアチューブ引き上げ時に岩片化したものである。																																		
	39				明褐灰	Eg Vg dg			38.52m: 傾斜42°の割れ目は、交差する割れ目を止めている。幅3~8mmの軟質な明褐色粘土脈を挟み、含まれる粗子に定向配列は認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																																		
					明褐灰	Cg Vg cg			39.04~39.12m: やや硬質な岩片を含む。 39.14m: 傾斜15°で幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 39.24~40.17m: 割れ目の一部は風化で砂状化する。傾斜20~40°の割れ目と、これに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。部分的に幅1~2mmの明褐色の粘土脈を挟む。 39.67m: 傾斜44°の割れ目は、交差する割れ目を3箇所で止めている。割れ目には挟在物が認められず、止められている各割れ目が傾斜44°の割れ目を挟んで系統的に変位していない。																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 ( 試験 ) ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														0	10	20	30	40												50							
41			花崗斑岩	明褐灰		VG				40.08m・40°、40.14m・35°の各割れ目沿いに著しく軟質化する。 40.17~40.69m: 上下に比べ、割れ目は少なくなる。				0	10	20	30	40	50																		
						CG						40.47m・25°と40.50m・36°に囲まれた部分は著しく軟質化し、砂状~径5mmに細片化する。																									
						DG	VG					40.69~41.18m: 傾斜30~40°の割れ目主体で、一部は消滅しかかっている。割れ目沿いに砂状化する。一部の割れ目に幅1~2mmの軟質な白~淡褐色粘土を挟む。																									
						EG	VI	dg				41.19~41.45m: ごく一部で割れ目は残留するが、大半は風化で消滅する。原岩組織は明確に残留するが、コア全体が著しく軟化する。																									
42					DG	VG	cg			41.45~42.23m: 傾斜30~40°の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂状化し、一部では砂状部の幅が広がる。																											
					EG	VI	dg			41.86m: 傾斜42°の割れ目沿いに幅3cm程度で褐色化が顕著である。幅2mm程度の砂状部を挟む。																											
43						EG	VI	dg	δ	3		42.23~42.50m: 幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が横状に分布し、全体に軟質化が著しい。 42.27m: 傾斜42°で幅5~8mmの軟質な褐色粘土脈を挟む。粘土の境界は不明瞭で、下端側に注入する。粘土中の粒子の定向配列は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 42.49m: 傾斜37°で幅1~2mmの軟質な白~褐色の粘土脈を連続的に挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																									
44						DG	VG	cg				42.50~44.56m: 傾斜10~40°の割れ目や低密着割れ目が主体で、割れ目沿いに弱く風化し、一部に幅1~2mmの白~褐色の軟質な粘土を挟む。 43.15m: 傾斜15°の割れ目で高角度割れ目が止まっている。幅2mmの風化砂状部を挟む。 43.20m: 傾斜36°の割れ目は他の割れ目を止めている。幅3mmの軟質な白~褐色粘土を挟むが、高角度割れ目にも流入する。いずれの割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 43.74~44.56m: 傾斜10~40°の割れ目と、これに斜交~直交する60~90°の割れ目が分布し、径10~20mmに岩片化する。割れ目沿いに砂状化することが多い。 44.05m・10°と44.08m・10°ないし75°の割れ目で囲まれた部分は、砂状~径5~10mmの細岩片状を呈する。粘土化はない。 44.41~44.43m: 珪質部で、硬質岩片として残留する。 44.56~45.91m: 傾斜20~40°と60~80°の割れ目が交差し、径5~10mmの岩片状と岩片間の砂状部の基質からなる。基質はやや粘土化が進み、全体は著しく軟質化する。																									



標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 付	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原 位 置 試 験 ( 孔 内 水 平 態 勢 )	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル ノ ー ビ ッ ト	給 水 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																								
													0	10	20	30	40												50																							
46				にぶい橙		Vg dg		dg	45.10~45.56m: 割れ目が明瞭に残留する。	0			0																																							
									45.27m: 傾斜48°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。幅3~4mmの不連続で軟質な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																					1																						
									45.60m: 傾斜70°の連続した割れ目に幅2~3mmの軟質な白~明赤灰色粘土脈を挟む。明赤灰色粘土脈は不連続である。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ●45.91~48.28m: 破砕部 45.91~45.94m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端52°, 下端35° ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅30mm。 45.94~46.41m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35°, 下端15° ともに直線的でシャープに連続。径10mm前後の岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が網目状に分布する。淡黄褐色を呈する。 46.41~46.45m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端15° で直線的にシャープに。下端20° でやや波打ちながら連続。径1~3mmと少量の径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。淡黄褐色を呈する。幅25~30mm。 46.45~47.64m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端20°, 下端20° ともにやや波打ちながら連続。径5~20mmの岩組織がほぼ消滅した花崗斑岩の岩片と岩片間を縫うように網目状に分布する幅1~2mmの白色軟質粘土脈及び46.80mでは幅8mm、57°の灰黄褐色粘土などからなる。明黄褐色を呈する。46.77~46.79mのほぼ水平に分布する暗褐色の細粒部については、コア掘削時のコアの供回りによるものである。 47.64~47.65m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端20° でやや波打ちながら。下端10° で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と少量の粘土化した径5mmの花崗斑岩の岩片を含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅10~15mm。 47.65~48.18m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端10°, 下端34° ともに直線的でシャープに連続。一部で岩組織が残留。一部で消滅した径5~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間を網目状に分布する幅1~2mmの白色軟質粘土脈からなる。明赤灰~明褐色を呈する。 48.18~48.26m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端34°, 下端68° ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と下部部に硬質岩片を残すが、これ以外は粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片からなる。やや硬質。灰白~明黄褐色を呈する。幅40~70mm。 48.26~48.28m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端68°, 下端68° ともに直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。やや硬質。明黄褐色を呈する。幅6~8mm。下端の灰白色の細粒部は不連続である。 48.28~48.67m: 原岩組織が残留した径10~20mmの岩片からなり。一部、岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が分布するが、連続性は悪く短い。風化で割れ目は消滅しかかったものが多い。 48.67~49.20m: 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅する。 ●49.20~49.91m: 破砕部 49.20~49.82m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭。下端44° で直線的でシャープに連続。径10~30mmの岩組織が残留する岩片と。岩片間を幅1~3mmで網目状に分布する白色粘土脈からなる。明褐色を呈する。 49.82~49.84m: 粘土状部 (Hc-1) 上端44° で直線的にシャープに。下端43° でやや波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅10mm。 49.84~49.91m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端43° でやや波打ちながら連続。下端30° でやや不明瞭である。岩組織が消滅したものが大半の径2~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間の一部が軟質で白色粘土化する。明褐色を呈する。幅10mm。 49.91~50.77m: 一部で径10~50mmの原岩組織と割れ目が残留するやや軟質な岩片を含むが、著しく軟質化したものが主体である。傾斜60~70°とこれに斜交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いや岩片間の一部が軟質な白色粘土化する。																																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
															( N 値 ~ 深度 ) 図																										
															0 10 20 30 40 50																										
51				明褐灰 にぶい橙	Eg	Vi	dg				50.70~50.77m: 上端50°, 下端65° とともに直線的にシャープに連続。 下端の一部には幅1~3mmの軟質な白 ~灰赤色粘土脈を伴う。径5~10mmの 粘土化した花崗斑岩の岩片が主体で、 岩片間には幅1~2mmの白~灰黄色の 軟質な粘土が分布する。粘土混じり岩 片状を呈する変質部である。明黄褐色 を呈し、幅は30~70mmと膨縮する。 50.77~51.69m: 径5~10mmの岩片と 粘土化した基質からなる。基質の一部 に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が 短く分布する。 50.80~50.88m: 褐色化が顕著である。																														
52				灰褐 にぶい黄橙	Dg	Vi	cg				51.12~51.24m: 傾斜約40°で珪質部 が硬質で残留する。傾斜40°の割れ 目が約10mm間隔で発達する。 51.69~52.20m: 傾斜50~60°と、こ れに斜交する傾斜30~40°の割れ目 が見られる。																														
53				花崗斑岩	Eg	Vi	dg	δ	3		52.20~53.77m: 著しく軟質化した径 5~20mmの岩片からなり、原岩組織は ほぼ消滅する。部分的に岩片間に幅1 ~3mmの軟質な白色粘土脈が分布する。 ●53.77~54.54m: 破砕部 53.77~53.78m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端65°, 下端65°とともに直線的 に連続。径1~8mmの石英粒や花崗斑 岩の岩片主体で基質は黒褐色粘土か らなる。黒褐色を呈する。幅5~10mm 。53.78~53.80m: 粘土状部 (Ho-1) 上端65°, 下端65°とともに直線的 にシャープに連続。軟質。灰褐色を 呈する。幅5~10mm。 53.80~53.90m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端65°で直線的にシャープに、下 端20°でやや波打って連続。径1~4m mの石英粒と径10mm前後の粘土した 岩片を主体とし、岩片間の一部に白 色粘土を伴う。灰褐色を呈する。幅1 00~160mm。 53.90~53.93m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端20°でやや波打って、下端25° で直線的にシャープに連続。ごく少 量の径1~2mmの石英粒と径10mm程度 の粘土化した扁平なレンズ状の花崗斑 岩の岩片を含む。やや硬質。淡黄橙 色を呈する。幅25~30mmで膨縮する。 53.93~54.06m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端25°, 下端60°とともに直線的 にシャープに連続。径1~5mmの石英 粒と径5~10mmの粘土化した扁平なレ ンズ状の花崗斑岩の岩片を多く含む。 にぶい黄橙色を呈する。幅100~160m m。 54.06~54.07m: 粘土状部 (Ho-1) 上端60°で直線的にシャープに、下 端64°で大きく波打ちながら連続。 径1~2mmの石英粒を含み、岩片は含 まない。やや硬質。淡黄橙色を呈す る。幅5~15mmで膨縮する。 54.07~54.45m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端64°で大きく波打ちながら、下 端46°でほぼ直線的にシャープに連 続し、下端では幅1~2mmの白色軟質 粘土を伴う。全体が粘土化で著しく 軟質化しており、岩片境界はほとん どが不明瞭。54.35~54.40m間では径 1~4mmの石英粒が30~35°で配列す る。54.38~54.45mはマンガン鉱染を 受け、灰黄褐色を呈する。全体は灰 黄~灰黄褐色を呈する。幅190mm (60 °)。 54.45~54.54m: 礫質砂状部 (Hb) 上端46°, 下端55°とともに直線的 にシャープに連続。径1~3mmの石英 粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多 く含む。やや硬質。淡黄色を呈する。 幅60~70mm。 54.54~56.11m: 径5~10mmの大型な 石英斑晶を多く含む。全体に珪質で ある。傾斜60~70°とこれに交差す る傾斜40~60°の割れ目が主体で、 割れ目沿いに砂状~細片化する部分 がある。																														
54				にぶい黄橙	Cg	Vi	cg				54.45~54.45m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端64°で大きく波打ちながら、下 端46°でほぼ直線的にシャープに連 続し、下端では幅1~2mmの白色軟質 粘土を伴う。全体が粘土化で著しく 軟質化しており、岩片境界はほとん どが不明瞭。54.35~54.40m間では径 1~4mmの石英粒が30~35°で配列す る。54.38~54.45mはマンガン鉱染を 受け、灰黄褐色を呈する。全体は灰 黄~灰黄褐色を呈する。幅190mm (60 °)。 54.45~54.54m: 礫質砂状部 (Hb) 上端46°, 下端55°とともに直線的 にシャープに連続。径1~3mmの石英 粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多 く含む。やや硬質。淡黄色を呈する。 幅60~70mm。 54.54~56.11m: 径5~10mmの大型な 石英斑晶を多く含む。全体に珪質で ある。傾斜60~70°とこれに交差す る傾斜40~60°の割れ目が主体で、 割れ目沿いに砂状~細片化する部分 がある。																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( N値~深度 ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
																( N値~深度 ) 図																			
																0 10 20 30 40 50																			
56																																			
				花崗斑岩																															
57																																			
58																																			
59																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアラ形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															0	10	20	30	40												50									
61				明褐灰	Eg	Vg	dg	3			<p>●60.12~60.15m: 破砕部 (G断層)</p> <p>60.12~60.13m: 粘土状部 (Ho-1)</p> <p>上端40°でほぼ直線的にシャープに、下端40°で波打って連続。上端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径1~2mmの石英粒と径5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片をわずかに含む。軟質。灰白色を呈する。幅1~10mmと縮縮する。</p> <p>60.13~60.15m: 粘土混じり礫状部 (Hj)</p> <p>上端40°、下端45°とともに波打って連続。下端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径5~10mmの花崗斑岩の岩片主体で岩片間に幅0.5mmの灰白色粘土を伴う。にふい黄色を呈する。幅5~30mm。</p> <p>60.15~60.84m: 著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は残留する。所々、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が分布する。60.46mには傾斜60°の消えかかった割れ目沿いに幅10mm程度がマンガン鉱染を受け黒褐色化する。</p> <p>60.84~62.64m: 傾斜40~60°の割れ目とこれに斜交~直交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いは薄く砂状化するものが多い。軟質な粘土脈は分布しない。</p> <p>61.49~61.52m: 不規則な形状で礫混じり粘土状部を呈する。マンガン汚染を受けて黒褐色を呈する。</p> <p>61.76~61.80m: 径2~10mmの角礫と粘土基質で、基質はマンガン鉱染を受け黒色化する。上下端は凹凸があり、直線的なシャープさはない。</p>	D'																												
62				花崗斑岩	Dg	Vg					<p>62.64~63.00m: 傾斜60°の割れ目が主体で、粘土脈は分布しない。</p>																													
63				明褐灰	Cg	Iv	cg	2			<p>63.00~63.39m: 傾斜40~60°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体で、粘土脈は分布しない。割れ目沿いは薄く砂状化する。</p> <p>63.39~65.69m: 互いに斜交~直交する傾斜40~60°の割れ目が主体で、65.44m以深では風化も弱くなり、割れ目沿いの薄く砂状化も認められなくなる。粘土脈は殆んど分布せず変質も弱い。</p>																													
64				灰褐	Dg	Vg																																		

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コ	ア	採取率 (%)	岩級	区	分	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
																		N 値 ~ 深度	図																						
		66		灰褐				cg δ			65.69~67.43m: 上位に比べ割れ目は少ない。風化は66.49m以浅では割れ目の面がごく薄く風化褐色化する程度で、66.49m以深では割れ目周辺まで風化が進み淡褐色化する。粘土部や粘土脈がわずかに分布する。傾斜20~40°とこれに斜交~直交する50~70°の割れ目が主体で、割れ目の一部はマンガン鉱染を受け、面は黒褐色化するが、軟質化は伴わない。			0	CL'																										
		67		にんじい黄橙				bg γ			66.10~66.65m: 傾斜2~5mmの白濁した長石斑晶が多く分布する。			10	CM'																										
		68		花崗斑岩				Dg Vg cg			67.08~67.22m: 径5~10mmの大型な石英斑晶が多く分布する。			6	CL'																										
		69		灰褐				Eg Vg dg δ			67.43~67.70m: 上位よりも割れ目や低密度割れ目が多くなる。 67.55m: 傾斜65°で幅0.5mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 67.70~68.32m: 傾斜40~50°の互いに交差する割れ目が主体で、一部に幅0.5~1mmの淡黄色粘土脈を挟む。 67.78~67.95m: 上下傾60°の割れ目に挟まれて、やや軟質化するが、粘土化は伴わない。			4	D'																										
								Dg Vg cg			68.32~68.52m: 軟質化が著しく、幅1~3mmの軟質な灰白~灰赤色粘土脈が網状に分布する。 68.52m: 傾斜70°で幅2~5mmの軟質な白~明黄色粘土脈を挟む割れ目、やや波打って連続性・直線性に乏しい。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。 68.52~68.84m: 全体に粘土化が進み軟質化が著しい。白色粘土が網目状に分布する。 ●68.84~69.00m: 破砕部 68.84~68.93m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50°で不明瞭、下端55°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体、明灰褐~灰白色を呈する。幅32mm。 68.93~68.95m: 粘土質線状部 (Hb) 上端55°、下端50°でともにやや波打って連続。径5~18mmの粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。石英は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン鉱染を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色を呈する。幅20~30mm。 68.95~69.00m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50°、下端45°でともにやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体、下端は幅2mmの硬質な淡褐色粘土脈を伴う。灰褐色を呈する。幅32~35mm。 69.00~69.73m: 大半の割れ目は消滅するが、69.42mに傾斜68°、69.67mに傾斜70°で直線的でシャープな割れ目が残存する。 69.06~69.18m: 傾斜60~80°で幅2~8mmの灰赤色粘土脈が湾曲しながら連続する。 69.73~71.21m: 大半の割れ目が残留し、傾斜10~30°と、これに斜交~直交する50~80°の割れ目が主体で、割れ目沿いに薄く砂状化することが多い。 69.89m・50°の割れ目は面の凹凸が著しいが、そのかみ合わせは良い。69.97m・65°の割れ目は交差する割れ目を止めている。両者とも挟む物はなく、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			3	CL'																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															0	10	20	30	40												50						
71			+	花崗斑岩	灰褐	Dg	Vg	cg	2		70.10~70.40m: 割れ目はほぼ消滅する。粘土脈の分布は少ない。	0 50 100 3 (0)	CL'																								
72											Eg																					Vg	dg	3	71.21~71.35m: 著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は大半が残留する。幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が傾斜40~60°で平行に分布する。上端側はマンガン鉱染で黒褐色化する。 71.35~74.20m: 傾斜20~40°と、これに斜交~直交する傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部は、割れ目沿いに薄く砂状化~径5mmに細片化する。粘土脈の分布は少ないが、73.40m以深では、割れ目の一部に幅1~8mmで軟質な灰白~白色粘土脈を挟む。	3 (0)	D'
73											Dg																					Vg	cg	2	6	2 (0)	
74											Eg																					Vg	dg	3	74.04m以深では傾斜40°の割れ目沿いに幅10~40mmで径5mm前後の細片状を呈する。岩片間の一部に径10mm前後の斑点状に白色粘土化部を伴う。 74.28~75.50m: 著しく軟質化し、幅1~5mmの軟質な白~灰赤色粘土脈が傾斜50~80°で多数分布する。大半の粘土脈は湾曲したり波打ったりしてシャープな直線性は示さない。74.48mの傾斜55°の割れ目には幅0~4mmの軟質な灰赤色粘土を不連続に挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。 74.70~75.50m: 傾斜80°以上の高角度割れ目が多く、灰白色粘土を伴う。	3 (0)	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																										
															( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																																					
			花崗斑岩	に多い黄褐色	Eg	VIg	dg				75.10~75.50m: 幅1~5mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布する。	0	D'																																								
76											Dg																			75.50~77.75m: やや硬質な岩片も多く含む。傾斜10~30°が主体で、これらと斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目と低密度割れ目が分布する。割れ目の一部は砂状化し、一部には幅1mm前後の軟質な白色粘土脈を挟む。粘土化で白濁した径2~5mmの長石斑晶が多い。	2																						
77											Cg																		Vg	cg	3	δ	77.10~77.25m: 全体に軟質化し、一部で軟質な白色粘土が径2~3mmの斑点状~幅1mmの脈状で分布する。	4		CL'																	
78																																		Eg	VIg	dg	77.25~77.75m: 割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。	4															
79											明青灰																						77.75~78.77m: 径10mm前後の硬さ「D」ないし「C」の岩片を含むが、全体には著しく軟質化する。原岩組織は一部で残留するが、割れ目はほぼ消滅する。78.20~78.40m、78.70~78.77mに径5~10mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片が残留し、傾斜10~30°と60~70°の消滅しかかった割れ目がわずかに残留するが、残留する岩片間には幅1~2mmの軟質な白色粘土が脈状に分布するが、直線的でシャープなもの、78.48mの傾斜63°で幅1mmの粘土脈のみである。	1			D'																
			灰褐色					●78.77~79.19m: 破碎部 粘土質凝結部 (Hj) 粘土質凝結部 (Hj) でやや湾曲して、下端63°で直線的にシャープに連続。岩組織は明瞭であるが、割れ目は78.97mの54°以外は消滅する。全体に変質しており、著しく軟質化する。79.15mに深に幅1~3mmの約60°で軟質な灰赤色粘土脈を3箇所伴う。灰褐色~明青灰色を呈する。	3			CL'																																									
								79.25~79.85m: 傾斜10~30°と60~70°の割れ目が約10mm間隔で細かく分布し、径10mm程度の岩片に分離し易い。一部で幅0.5mmの白色粘土が付着する。	2																																												
								79.85m: 傾斜50°で幅2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	3																																												
								79.85~80.08m: 全体に著しく軟質化し、幅1~3mmの軟質な白色粘土が網状に分布する。																																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	試験 (標準貫入) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														(N)	(N値~深度)															
			[岩状図]	花崗斑岩	灰褐色	Eg Vg dg	cg	δ	3	80.08~81.00m: 互いに交差する傾斜40~60°の割れ目が多く、径5~20mmの岩片からなる。割れ目の一部は薄く砂状化したり、径5mmの岩片に細片化する。一部の割れ目には白~にぶい橙色の軟質な粘土脈を挟む。	0 50 100 3 6 9 12 15 18 21 24 27 30 33 36 39 42 45 48 51	CL'		0 10 20 30 40 50																
		80.80~80.90m: 径3~5mmの粘土化で白濁化した長石斑晶が多い。																												
81		81.00~81.20m: 径10~20mmの硬さ「D」の岩片と砂状に軟質化した岩片からなる。基質中に幅1~3mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 ●81.20~81.42m: 破砕部 81.20~81.30m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端40°で一部湾曲し、下端35°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径3~15mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。やや硬質。 81.20~81.27m: 白にぶい黄褐色、81.27~81.30m: 浅黄褐色を呈する。幅50~50mm。																												
		81.30m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜35°で径2~4mmの軟質な灰赤色粘土からなる。 81.30~81.42m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端35°で直線的にシャープに、下端60°でやや湾曲して連続し、灰赤~白色の幅1mmの軟質粘土を伴う。径1~3mmの石英粒と径5~20mmの一部粘土化、一部硬さDの花崗斑岩の岩片を多く含む。81.37m以深では礫量が増加する。上端割幅10mmは淡赤褐色で、これ以外には白~黄褐色を呈する。 81.42~82.88m: 傾斜50~70°の割れ目や低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する30~70°の割れ目が分布するが、この割れ目は連続性が悪く、途中で消滅するものが多い。割れ目の一部に幅0.5~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。																												
			花崗斑岩	灰褐色	IVg	bg	γ	2	81.42~81.58m、82.27~82.88m: 割れ目沿いにマンガン鉱染を受け黒褐色化する。 82.45m: 傾斜70°の割れ目で、これにはほぼ直交する割れ目は止まっている。割れ目には幅0~2mmの軟質な白色粘土を不連続に挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 82.88~83.92m: 径5~8mmの大型の粘土化で白濁した長石斑晶が多く分布する。また、石英斑晶も径5~10mmで大型化する。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部の割れ目沿いに径2~10mm程度の岩片に細片化するが砂や粘土は挟まない。 83.92~87.14m: 傾斜30~60°の割れ目と、これらに斜交~直交する30~70°の割れ目を主体とする。同傾向の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部では薄く砂状化する部分があるが、粘土化部は分布せず、粘土脈を挟む割れ目も少ない。径3~10mmの粘土化で白濁した長石斑晶が目立つ。割れ目の一部はマンガン鉱染でごく薄く黒褐色化し、コア表面の一部もマンガン鉱染により径2~5mmの斑点状に黒褐色化する。	6 9 12 15 18 21 24 27 30 33 36 39 42 45 48 51	CM'		0 10 20 30 40 50																	
82																														
			花崗斑岩	灰褐色	IVg	bg	γ	2		6 9 12 15 18 21 24 27 30 33 36 39 42 45 48 51	CL'		0 10 20 30 40 50																	
83																														



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ベット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																					
															(N)	(m)																																																																																
86			花崗斑岩	灰褐色	Vg	IVg	bg	γ			<p>85.46m・75°と85.49m・55°の割れ目に幅0.5~1mmの軟質な白~橙色粘土脈を挟む。</p> <p>85.53m: 傾斜65°で幅3~5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。</p> <p>85.65~85.68m: 傾斜20°と50°の割れ目が交差し、径5~15mmの岩片状を呈する。粘土は伴わない。</p> <p>86.04m・40°、86.30m・60°、86.43m・55°の各割れ目沿いに幅2~5mm程度砂状化する。</p>	CL'			0	10																																																																																
87		花崗斑岩																																		にぶい黄褐色	Eg	VIg	cg	δ	2		<p>87.14~88.28m: 径5~40mmの硬さ「C」の岩片と砂状に軟質化した基質からなる角礫状を呈し、基質中には岩片間を縫うように幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が分布するが、長さ50mm未満で連続性は悪い。岩片密集部には傾斜10~30°と60~80°の2系統の割れ目が残留する。</p>	D'				0	10																																															
88																																																																			花崗斑岩	にぶい黄褐色	IVg	cg	γ		<p>87.69~87.84m: 硬質部が中石状に残留する。</p>	D'					0	10																
88																																																																																																
88																																					花崗斑岩	にぶい黄褐色	Dg	VIg	dg		<p>88.28~89.91m: 傾斜30~40°とこれに斜交~直交する傾斜60°の割れ目が主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。特に、89.68m以深で粘土脈を多く含む。</p>	D'			0	10																																																
89																																																																			花崗斑岩	にぶい黄褐色	Eg	VIg	cg	γ		<p>89.31m: 傾斜40°の割れ目で、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。割れ目に細粒部の挟在は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p>	CL'				0	10																
89				花崗斑岩	にぶい黄褐色	IVg	bg	γ		<p>89.38m: 傾斜55°で幅0.5~2mmの軟質な明赤灰色粘土を挟み、下端側は89.44mまで突幅40mm程度で粘土化が進み軟質化する。</p>	CL'				0	10																																																																																
89		花崗斑岩																																にぶい黄褐色	Vg	cg		<p>●89.91~89.95m: 破砕部</p>	CL'				0	10																																																				
89																																																															花崗斑岩	にぶい黄褐色	Dg	VIg			cg	2	<p>89.91~89.93m: 硬質粘土状部 (Hb) 上端50°で直線的に、下端45°で波打って連続。径5~10mmの岩片を30%程度含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅12~15mm。</p>	CL'				0	10																			
89				花崗斑岩	にぶい黄褐色	Eg	VIg	cg	3	<p>89.93~89.95m: 粘土状部 (Hc-1) 上端45°で波打って、下端45°で直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒をわずかに含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅2~5mm。</p>	CL'				0	10																																																																																
89		花崗斑岩																																にぶい黄褐色	Dg	VIg	cg	2	<p>89.95~89.98m: 硬さ「C」の中石である。</p>	CL'				0	10																																																			
89																																																															花崗斑岩	にぶい黄褐色	Eg	VIg	cg	2	<p>89.98~90.00m: 上端23°、下端25°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む隣接し粘土状を呈する。粘土は軟質~やや硬質である。灰白色を呈し、幅15~18mmである。</p>	CL'				0	10																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															(N)	(m)																			
91				灰褐	Dg	Vg	cg	2			90.00~90.26m: 傾斜30~50°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、径5~50mmの硬さ「C」の岩片を呈することが多い。 ●90.26~90.84m: 破砕部	0	CL'		0	10																			
				灰白	Eg	VIg	dg	3				90.26~90.31m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端50°で波打ち、下端70°で直線的にシャープに連続。径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅15~20mm。 90.31~90.37m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端70°、下端70°でともにほぼ直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒とほぼ粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片を多く含む。やや軟質。上端には幅1~2mmの灰赤色軟質粘土脈を伴う。灰白色主体で連続に灰赤色呈する。幅20~35mm。 90.37~90.66m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端70°、下端75°でともにほぼ直線的にシャープに連続。ほぼ粘土化した岩組織も消滅した径5~30mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間を幅0.5~1mmの軟質な白~灰赤色粘土脈が分布する。にぶい黄褐色~灰白色を呈する。	4	D'		10																			
				灰褐	Cg	Vg		2				90.66m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜75°で幅2mmの軟質赤灰色粘土で、直線的にシャープに連続する。 90.66~90.72m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端75°で直線的にシャープに、下端60°で波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒、長石粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~20mmと縮する。 90.72~90.84m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端60°で波打って、下端50°でほぼ直線的にシャープに連続。径5~20mmの一部硬質礫が残留するが、概ね粘土化した花崗斑岩の岩片と径2~3mmの石英粒、長石粒、花崗斑岩の細岩片を含む基質からなる。にぶい黄褐色を呈する。	3	CL'		10																			
92				褐灰	Eg	VIg	dg	6				90.84~91.26m: 傾斜60~70°の割れ目が20~40mm間隔で平行に分布する。これらの割れ目に斜交~直交する傾斜40~50°の割れ目も多い。91.21m付近では、前者は後者を止めている場合と横断する場合が見られる。割れ目の一部には断片的に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ●91.26~91.52m: 破砕部	1	D'		10																			
				灰褐	Cg	Vg						91.26~91.31m: 粘土混じり礫状部 (H) 上端60°で直線的にシャープに、下端63°で湾曲して連続。径1~3mmの石英、径5~10mmの花崗斑岩の粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土脈を挟む。やや軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅20~40mm。 91.31~91.33m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端63°で湾曲し、下端63°で波打って連続。径1~2mmの石英粒と径5~20mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。赤灰色を呈する。幅0~15mmと縮する。 91.33~91.52m: 粘土混じり (一部粘土質) 岩片状部 (H) 上端63°で波打ち、下端30°で不明瞭に連続。粘土化した、または硬質な径5~10mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間には白~灰赤色軟質粘土が分布する。にぶい黄褐色~明赤灰色を呈する。	4	CL'		10																			
				灰褐	Eg	VIg	dg	3				91.52~92.00m: 硬さ「D」ないし「C」の径10~30mmの岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。傾斜20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかかっている。基質の一部に幅1~3mmの軟質な白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mは掘削時の攪乱により、径5~10mmに砕けている。	3	D'		10																			
94					灰褐	Cg	Vg																												
					灰褐	Eg	VIg	cg																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 ( m ) 測定月日	( 標準貫入 ) 試験					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 ( kN / MPa )	回転数 ( rpm )	送水圧 ( MPa )	送水量 ( L / 分 )	排水量 ( L / 分 )									
														( N 値 ~ 深度 ) 図																								
				花崗斑岩	灰褐	D <sub>g</sub> V <sub>g</sub> C <sub>g</sub>	cg	2				CL'		0	10	20	30	40	50																			
																															灰白	E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg	dg	3				
91					灰褐	C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	2					CL'		0	10	20	30	40	50																		
																															E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> cg	cg						
					C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>	3								0	10	20	30	40	50																		
92																															褐灰	E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg	dg	6				92.00~92.15m: 上位より岩片は細片化し、径5~10mmの岩片が主体で粘土化する。岩片間を幅1~2mの軟質な白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。 92.15m以深では更に粘土化が進み、傾斜5°で幅40mmで軟質な硬質粘土状を呈する。全体ににぶい黄褐色を呈する。 92.19~92.94m: 92.48~92.66mを除き、原岩組織と割れ目はほぼ消滅し、著しく軟質化する。幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を伴う。 92.31~92.41m: コア掘削時の供回りによる攪乱で粘土化する。 92.48~92.66m: 傾斜30~40°とこれに斜交する60~70°の割れ目の一部が残留し、その一部に軟質な白色粘土を挟む。 92.94~93.12m: 傾斜10~20°とこれに斜交する40~60°の割れ目が分布する。割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。また、一部の割れ目は薄く砂状化する。 ●93.12~93.24m: 破砕部 93.12~93.20m: 粘土質礫状~粘土混じり礫状部 (Hb) 上端65° 下端30° ともに直線的でシャープに連続。径1~3mmの石英粒、粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片主体で岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質~やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅50~100mmと膨らむ。 93.20m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜30°で幅2mmのやや軟質な灰赤色粘土からなる。ほぼ直線的に連続する。 93.20~93.24m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端30°、下端55° ともに直線的に連続する。径1~2mmの石英粒、粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質~やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅30mm。 93.24~93.43m: 硬さ「C」ないし「D」の岩片が残留するが、岩片間の基質は著しく軟質化する。基質中には幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が多く分布する。 93.41~93.43m: 一部は軟質な白色粘土化部となる。 93.43~94.40m: 94.00~94.14mは風化により不規則な形状で著しく軟質化するが、これ以外はやや硬質である。割れ目沿いに幅0.5~5mmの軟質な白色粘土脈を挟む。特に、94.14m以深では、傾斜70~80°の粘土脈が多数分布する。傾斜10~30°と70~80°の割れ目が主体で、上記の粘土脈のほか、割れ目の一部は風化で薄く砂状化する。 94.40~95.23m: 著しく軟質化し、一部で硬さ「C」、「D」の径10~30mmの岩片を含む。94.76m・55°と95.07m・65°の割れ目は直線的でシャープに連続する。前者は幅0~2mmの軟質な白色粘土を不連続に伴い、後者は幅1~2mmの軟質な灰赤色粘土を連続的に伴う。両者とも面を境として変質の程度が異なる。いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。
93				C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>							CL'		0	10	20	30	40	50																			
																																E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> cg	cg					
				C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>									0	10	20	30	40	50																			
94																																E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg	dg	3				
				C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>									0	10	20	30	40	50																			
																															E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> cg	cg						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																					
															( N ) 値																																				
				灰褐色						δ	3	0	D'		0	10	20	30	40	50																															
96																							95.07~95.14m: 粘土化が進み、上下位よりも粘土量が多い。	5	CL'		5	10	20	30	40	50																			
																																										5	10	20	30	40	50				
97																							95.23~99.46m: 97.90~98.70m間が変質で軟質化する以外は、やや硬質である。傾斜20~50°の割れ目が主体で、これらに斜交~直交する30~50°の割れ目も分布する。	5	CL'		5	10	20	30	40	50																			
																																														5	10	20	30	40	50
																																														5	10	20	30	40	50
				5	10	20	30	40	50																																										
98					灰黄褐色							96.28~96.48m: 各割れ目沿いに砂状化し、割れ目に幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。	5	CL'		5	10	20	30	40	50																														
																																5	10	20	30	40	50														
99					灰褐色							97.80~98.70m: 割れ目沿いに砂状化し、幅0.5~1mmの軟質な白~灰赤色粘土脈を挟む。 97.83m: 傾斜60°の割れ目で、同系統の割れ目には横断する割れ目も見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	5	CL'		5	10	20	30	40	50																														
																																			5	10	20	30	40	50											
																																			5	10	20	30	40	50											
			5																																10	20	30	40	50												
			5																																10	20	30	40	50												
			5																																10	20	30	40	50												
	50.46	100.00									99.46~99.68m: 傾斜50~60°の割れ目が平行に分布する。割れ目沿いに変質が進み砂状化し、幅0.5~1mmの白~にぶい黄褐色の粘土脈を挟む。 ●99.68~99.71m: 破砕部 99.68~99.69m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端65°、下端63°でともにほぼ直線状でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、粘土化した径3~5mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間に幅1mm以下の白色粘土を挟む。やや軟質。灰赤~にぶい黄褐色を呈する。上端側の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。幅3mm。 99.69~99.71m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端63°、下端65°でともにほぼ直線状でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片を15%含む。やや軟質。灰赤~にぶい黄褐色を呈する。幅12mm。 99.71~100.00m: 傾斜50~70°と、これらに斜交~直交する30~40°の割れ目や低密着割れ目が分布する。各割れ目、低密着割れ目とも粘土脈は挟まない。 99.91m: 傾斜52°の割れ目は、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																																								

孔番 D1-1 孔

深度 0.00m ~ 18.00m

孔口標高 20.25m





孔番 D1-1 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 20.25m





孔番 D1-1 孔

深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 20.25m





孔番 D1-1 孔

深度 54.00m ~ 72.00m

孔口標高 20.25m





孔番 D1-1 孔

深度 72.00m ~ 90.00m

孔口標高 20.25m





孔番 D1-1 孔

深度 90.00m ~ 100.00m

孔口標高 20.25m



余白

H27-B-1

余白

ボーリング柱状図

調査名 [Redacted]  
事業・工事名 [Redacted]

ボーリングNo.											1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

ボーリング名	H27-B-1			調査位置	X:338.353, Y:1103.283			北緯	35° 45' 19.30"			
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2015年 5月23日 ~ 2015年 8月11日			東経	136° 1' 1.43"			
調査業者名	[Redacted]			主任技師	[Redacted]			現代場人	コ			
コ	ア			定			者	ボーリング責任者				
孔口標高	20.22 m	角	180° 上 90° 下 45.0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°			地盤勾配	鉛直	0.0°	使用機種	ハンマー 落下用具
総掘削長	140.00 m	度	0°	向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°			水平	0.0°	エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	岩級区分	標準貫入 (試験) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	N 値	原位置試験 (孔内水平位置)	室内試験	掘進速度 (m/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
											(N値~深度)	(N値)												
				盛土					0.00~3.00m: 盛土 径5~40mmの灰白色シルト、黒色砂岩、花崗岩類の礫を2~3割含む細~粗粒砂からなる。全体にルーズ。															
				明褐灰					3.00~4.11m: スライム 細~中粒砂からなり、礫はほとんど含まない。															
				黄橙					4.11~4.30m: 礫質砂 礫率30%の礫質砂でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。礫は花崗岩。礫径は2~30mmの歪角礫。															
				にぶい黄橙					4.30~4.65m: 礫混じり砂 礫率10~15%で半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。礫は花崗岩。礫径は2~30mmの歪角礫。															
				灰褐					4.65~5.85m: 砂礫 礫率50%。砂は径0.5~2mmの極粗粒砂~粗粒砂。															
									4.40~4.50m: スライムで、粘土状の細粒部からなる。															
									4.65~5.85m: 礫5cm以上の礫が多く含まれる。															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
														( ) 図 N 値 ~ 深度																				
6		15.55	6.60	砂礫	灰褐					5.40~5.60m付近には一部明赤灰色、明褐灰色、極暗赤褐色の礫が認められる。																								
		15.41	6.80	コア欠如	明褐灰					5.72~5.74m: 暗褐色シルト (スライム)																								
		15.16	7.15	礫混じり砂	明褐灰					6.15~6.30m付近は礫が著しく減少する。 6.30~6.60m付近は径1cm以上の半クサリ礫の礫が多く含まれる。 礫種は花崗斑岩。礫径は2~50mmの垂角礫~亜円礫主体、一部最大径200mmの礫あり。 6.60~6.80m: スライムシルト混じり細~中粒砂からなる。																								
7		15.06	7.30	有機質土	黒褐					6.80~7.15m: 礫混じり砂 礫率5~10%で半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径は2~30mmの垂角礫主体。																								
		15.06	7.30	有機質土	黒褐					7.15~7.30m: 有機質土 有機物を多く含む。																								
		14.88	7.55	礫混じり砂	にぶい黄緑					7.30~7.55m: 礫混じり砂 礫率5~10%で半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径は2~30mmの垂角礫主体。 7.55~8.60m: スライムシルト混じり細粒砂からなる。																								
8		14.14	8.60	コア欠如	灰黄褐																													
		14.03	8.75	礫混じり砂	明黄褐					8.60~9.50m: 礫混じり砂 礫率10~15%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径2~30mmの垂角礫~亜円礫。 8.75~8.85m付近はスライムを挟む。																								
		13.96	8.85	コア欠如	明黄褐																													
9		13.50	9.50	礫混じり砂	褐灰					9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる。黒色土層、砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm(真幅は黒色土2cm、砂4cm、下2cm)。黒色土層(上下)中に植物片が認められる。																								
		13.50	9.50	コア欠如	褐灰					9.50~10.00m: スライムシルト混じり細~中粒砂からなる。																								
		13.15	10.00	コア欠如	灰黄褐																													



標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定 日 月 日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 徑 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー リ ノ ビ ット	給 回 送 水 圧 数 (rpm) (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)
													0	10	20	30	40								
11	12.69	10.65		砂礫	黄褐				10.00~10.65m: 砂礫 礫率50%以上で半クサリ礫を一部含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。径0.5~1cmの石英が多く含まれる。礫種は花崗斑岩で一部アブライト含む。礫径2~200mmの亜角礫~亜円礫。	0															
	12.41	11.05		コア欠如	灰黄褐				10.65~11.05m: スライム シルト混じり細粒砂からなる。																
	11.84	11.85		砂礫	にぶい褐				11.05~11.85m: 砂礫 礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む。砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。径0.5~1cmの石英が多く含まれる。礫種は花崗斑岩。礫径2~100mmの亜角礫~亜円礫。	0															
12	11.66	12.10		コア欠如	にぶい黄褐				11.85~12.10m: スライム シルト混じり中粒砂からなる。																
	11.39	12.49		粗砂	明褐				12.10~12.49m: 粗粒砂 礫率5%未満でクサリ礫を含む。砂は0.5~1.0mmの粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径2~30mmの亜円礫。	0															
13				花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg Vg cg	e	3	12.49~94.07m: 花崗斑岩 12.49~14.84m: D 強く風化した砂状を呈するが、原岩組織は残留する。割れ目は一部消滅しているが、多くは残留している。所々、幅1mm程度の灰白色の粘土が脈状に分布する。割れ目は10~30°の低角度系が主体。	0															
									1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)							
14				花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg Vg cg	e	3	14.84~24.44m: CL 全体に10~30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目沿いに風化で砂状化が進んでいる。18.30m以浅では所々、マンガン鉱染伴う。	0															
									1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)							



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															0	10	20	30	40												50					
			花崗斑岩	にぎい黄橙	Dg			δ			15.22~15.44m: 硬さCの硬質岩片が残留している。	0																								
							Cg			γ				1																						
16													16.00~17.62m: 割れ目周辺に硬さ「E」が部分的に分布する。																							
								Vg					16.75~16.84m: 径30~40mmの硬さ「C」の硬質岩片が礫状に分布。																							
17														2																						
											17.44m: 傾斜15°の割れ目沿いに幅1~4mmが砂状化する。																									
												3																								
						Dg					18.10~22.19m: 上下に比べ割れ目少なくなる(コアの形状IV)。 18.31m: 傾斜10°で幅10mmマンガニ鉱染が脈状に分布、黒褐色化する。																									
18												8																								
												9																								
												10																								
19												14																								
											19.60m: 傾斜12°の割れ目沿いに幅10mm砂状化する。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平膨張)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
															( N 値 ~ 深度 ) 図																					
21			+			Dg	IVg				20.37~20.42m: 傾斜10°の割れ目沿いに幅2~10mmで暗褐色の岩片混じり粘土を挟む。一部は不規則な割れ目に流入する。	14 114																								
											21.16~22.01m: 割れ目沿いに幅10~30mmで砂状化する部分がある。																								7 10	CL'
22			+			Cg		cg δ			22.01~22.19m: 硬さ「C」の硬質部が残留。	14 114																								
23			+			Dg	Vg			3	23.05~23.80m: 20~30°と70~90°割れ目が交差し一部で交差部周辺で径10mm程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している。割れ目面にマンガン汚染がみられる。 23.16m: 傾斜12°の割れ目沿いに幅15mmで緑色化する。	3 10																								
24			+			Eg	VIg	dg ε			24.16m以深では硬さ「E」も含む。全体に脆い岩片多い。	5 10																								
			+			Dg	IVg	cg δ			24.44~24.71m: D風化で土砂状を呈する。岩組織や割れ目はほぼ消滅している。 24.71~26.62m: CL 10~30°割れ目が主体で割れ目沿いの一部は砂状化する。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状態	割れ 目の 状態	風化 程度	記 事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内 試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チップ ノズ ル	給 水 量 ( L / 分 )	回 転 数 ( rpm )	送 水 圧 ( MPa )	送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )		
													( N 値 )	( 深度 ) 図													
26			+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg IVg	cg	δ 3	25.03m : 傾斜18°の割れ目沿いに幅7mmの石英脈。マンガン脈を伴う。周辺は黄褐色化する。 26.00m以深では割れ目沿いの砂状化が更に進む。	0	CL'		0														
27	1.13 1.06	27.00 27.10	+	コア欠如 花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg VIg	dg	δ 3	26.62~27.60m : D 27.00m以浅では割れ目や原岩組織は残留するが、27.10m以深では両者ともほぼ消滅し砂礫状で採取されている。 27.00~27.10m : コア欠如。	0	D'																
28	0.42 0.29	28.00 28.19	+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg IVg	cg	δ 3	27.60~28.00m : CL 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を含み細片化し易いものも含まれている。 28.00~28.19m : コア欠如。	0	CL'																
29	-0.01 -0.06 -0.29 -0.35	28.61 28.68 29.00 29.09	+	コア欠如 花崗斑岩 明褐灰 コア欠如 花崗斑岩 明褐灰 コア欠如 花崗斑岩 明褐灰	明褐灰	Dg Vg	cg	δ 3	28.19~28.61m : CL 割れ目沿いの一部で砂状化する部分も含む。 28.61~28.68m : コア欠如。 28.68~28.84m : CL 割れ目沿いで砂状化する。 28.84~30.74m : D 締った砂状化を呈する。径10~30mm程度の硬さ「D」岩片が礫状に締った砂状部中に分布し砂礫状を呈する。 29.00~29.09m : コア欠如。	0	CL'																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 送 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
													0	10	20	30	40												50	
		31	+	明褐灰	Eg				30.17~30.50m: マンガン鉱染伴う。	0	D'		0	10	20	30	40	50												
									30.30~30.53m: 石英多く晶出(一部は変質による2次石英と推定される)。 30.38m: 傾斜5°で幅1~3mmの石英脈を不連続に挟む。																					4
				黄褐	Dg				30.74~32.49m: CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む。上端側の30.74~31.30m間は酸化汚染による黄褐色化が進むが軟化は伴わない。	0			0	10	20	30	40	50												
			31.05~31.23m: 熱水変質による粘土化変質。連化変質が著しく、前者では白色系粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱染と酸化汚染も併い全体として黄褐色の濃い色調を呈する。	3					100																					
		32	+	花崗斑岩	Vg cg		δ		31.47m: 傾斜35°で幅5~8mmの灰褐色の砂混じりシルトを挟む。	0			0	10	20	30	40	50												
									31.70~32.20m: 割れ目沿いの砂状化が進み「砂混じり岩片状」を呈する。岩片は径10~30mm程度の硬さ「D」で残留するが全体にやや上下に比べ脆くなる。																					6
		33	+	明褐灰	Eg				32.48~32.70m: D 原岩組織と割れ目はほぼ残留している。	0	CL'		0	10	20	30	40	50												
									32.70~34.54m: CL 割れ目沿いに厚さ1~2mm程度で薄く砂状化部を挟む。一部で砂状化が進行する部分もある。白濁化した長石多い。割れ目は10~20°が主体、一部で70~80°割れ目と交差。																					14
		34	+	明褐灰	Dg				33.17m: 15°割れ目と75°割れ目が一部は交差し、一部は75°割れ目が15°割れ目で止まっている。15°割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、15°割れ目に系統的な割れ目も存在しない。	0			0	10	20	30	40	50												
									33.40m: 15°割れ目沿いに厚さ20mm砂状化。 33.76m: 5°割れ目沿いに厚さ10mm砂状化。																					14
				にぶい 黄褐色	Eg	Vg	dg	4	●34.54~34.59m: 破碎部 34.54~34.59m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端10~40°で大きく湾曲、下端11°で直線的に連続。径5mmの花崗斑岩岩片主体で岩片間は粘土状~砂状を呈する。にぶい黄褐色を呈する。幅40~50mm。	0			0	10	20	30	40	50												
				明褐灰	Dg	Vg	cg	3	34.59m: 縦混じり粘土状部(Hc-2) 上下端とも11°で直線的に連続。径1mmの石英粒を10%程度含む。灰黄褐色を呈する。幅3~4mm。 34.59~35.37m: CL 細片化し易い砂着割れ目が多い。10~30°と50~70°の割れ目がみられる。	0			0	10	20	30	40	50												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																													
													( N 値 ~ 深度 ) 図																																																												
			+							0 50 100	CL'		0	10	20	30	40	50																																																							
36													Dg	δ					35.37~37.15m : D 軟化著しく硬さ「E」主体であるが原岩組織や割れ目はほぼ残留している。部分的に硬質岩片を中石的に含む。	4 10																																																					
													Eg																												γ	36.09~36.26m, 36.53~36.62m : 硬さ「C」の硬質部が残留する。	9 10																														
													Cg																																																								δ	36.70m以深で径10~30mmの硬さ「D」ないし「C」の岩片が礫状に残留する。	7 10		
		Eg											γ	37.15~42.00m : CL 0~30°割れ目主体で、割れ目沿いの一部で砂状化する部分も含む。	7 10																																																										
37																																										Vg	cg	3	37.80m : 5°割れ目沿い幅10~20mm砂状化、微細な白雲母が晶出している。	5 10																											
													Eg	δ	38.56~38.74m : 径20~30mmの硬さ「C」岩片が残留する。	5 10																																																									
													Dg																																																												
38													Dg	δ	39.90m : 幅10~20mm, 0°で淡緑色が分布 (緑泥石濃集部と推定される)。	4 10																																																									
39			+								CL'																																																														

標 尺	標 高	深 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 軟	割 目 状 態	風 化	記 事	コ ア 採 取 率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 月	標準貫入		試験 N 値 ~ 深度	原 位 置 試 験 (孔内水平載荷)	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm)	コ ア チ ュ ー ブ ノ ン ン ン	給 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	排 水 量 (L/分)									
													( N 値 )	( 値 )																				
41				明褐灰	Dg	Vg	cg	3	40.32~40.77m: 割れ目沿いの砂状化 進心。硬さ「D」ないし「C」の岩片 がその中に残留し、全体として砂状 状を呈し、上下に比べやや脆くなる。 底角度の割れ目その他、60~80°の割 れ目も分布する。 41.50m、2' 割れ目沿い幅30mm淡緑色 化(緑泥石化)し、径0.5~1mmの微細 な白炭母が晶出している。 41.95~42.00m: コアチューブ引上時 に壊され礫状コア化したもの。硬さ は「D」。 42.00~42.41m: D 一部の割れ目と原岩組織は残留して いる。 42.24~42.28m: 上端15°、下端18° 割れ目に囲まれ、厚さ30mm軟質・淡 黄色粘土化(変質度4)。上端側は緑色 化している。幅1mm白色粘土脈も所々 に点在する。マンガン鉱染がみられ る。 ●42.41~42.49m: 破砕部 42.41~42.43m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上下端各々63° 54' で波打って連続。 軟質で、径1~2mmの石英粒はわずか、 花崗斑岩岩片を計10%程度含む。にぶ い黄褐色を呈する。幅10~15mm。 42.43~42.45m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端54°、下端35° でいずれも波打 って連続。軟質で、径1~2mmの石英 粒、径5~10mmの粘土化花崗斑岩岩片 を計20~30%含む。灰白色を呈する。 幅5~10mm。 42.45~42.49m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35°、下端18° でいずれも波打 って連続。下端の一部はやや不明瞭。 径5~20mmの岩片からなり、岩片の一 部は粘土状~砂状。にぶい黄褐色を 呈する。幅40mm。 42.49~44.24m: D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目 の一部は残留している。傾斜10~30° 及び60~80° 程度の割れ目がみら れる。 43.45~43.48m: 厚さ25mm・23° の石 英脈が硬質で分布。 ●44.24~44.53m: 破砕部 44.24~44.31m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5~13° で湾曲して、下端35° で直線的に 連続。やや硬質で、径2~3mm石英粒、 径5~10mm(最大25mm)花崗斑岩岩片を 30%程度含む。灰黄色を呈する。幅45 ~65mm。 44.31m: 粘土状部 (Hc-1) 上下端とも35° で直線的に連続。軟 質で、径1mmの石英粒をごくわずか(5% 以下)含む。灰黄褐色を呈する。 幅1~2mm。 44.31~44.53m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35° で直線的に、下端70° で波 打って連続。径5mm前後の粘土化した 花崗斑岩岩片と岩片間は白色軟質の 脈状~網状粘土脈からなる。灰褐色 ~淡黄色を呈する。幅140~200mm。 ●44.53~44.83m: 破砕部 44.53~44.66m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端70° で波打って、下端65° で直 線的に連続。径5~10mmの粘土化岩片 と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体) からなる。にぶい褐色~灰白色を 呈する。幅5mm。 44.66~44.68m: 粘土状部 (Hc-1) 上端65° で直線的に連続。下端65° で一部波打って連続。軟質で、径1mm の石英粒ごく少量(5%以下)含む。 上下端側に直線的なせん断面と同方向 に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状の マンガン鉱染部を伴う。灰黄褐色を 呈する。幅4~5mm。 44.68~44.70m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端65° で一部波打って、下端50~7 0° で湾曲して連続。やや硬質で、上 位の軟質粘土と平行に分布し、径2mm 石英粒、径3~5mm粘土化岩片を計20 ~30%含む。明赤灰色~灰白色を呈す る。幅10~20mm。 44.70~44.83m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50~70°、下端75~85° でい ずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以 下の灰黄褐色軟質粘土脈。径5~10mm粘 土化岩片と岩片間の脈状~網状白色 ~淡黄色軟質粘土脈からなる。岩片 間の基質部には黒褐色のマンガン鉱 染部が点在する。灰褐色~淡黄色を 呈する。幅20~50mm。 44.83~45.36m: D 強く実質し、網目状の灰白色粘土が 分布する。原岩組織は残留する。	0 50 100																								
42				にぶい黄緑	Vlg	dg	δ	4																										
43				にぶい橙	Vg	cg	3	3																										
44				灰褐 灰白 灰褐 にぶい橙	Vlg	dg	4	4																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)											
													0	10	20	30	40												50										
		46	花崗斑岩	にぶい橙					●45.36~45.39m: 破砕部 45.36~45.39m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。にぶい橙色を呈する。幅6~10mm。 45.39m: 凝混じり粘土状部 (Hc-2) 上下端とも65°で直線的に連続。一部で幅1mmの2本に分枝・収れんする。やや軟質で、径1~2mm石英粒5~10%含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 45.39~46.12m: D 幅1mm前後の軟質な白色粘土脈が多い。強度質しているが、原岩組織は残留する。 ●46.12~46.17m: 破砕部 46.12~46.16m: 粘土質岩片状部 (Hj) 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや波打って連続。径6~10mmの粘土化岩片が粘土化基質中に離散に分布。下位のHc-2の粘土と平行した細かい割れ目や幅1mmの白色粘土細脈が分布。淡黄色を呈する。幅39mm。 46.16~46.17m: 凝混じり粘土状部 (Hc-2) 上端35°でやや波打って、下端35~70°で大きく湾曲して連続。やや硬質で、径1~2mm石英粒、径3mm粘土化岩片を20~30%含む。淡黄色~黒褐色を呈する。幅2~10mm。 46.17~47.40m: D 変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。 46.73m: 55°割れ目。幅1mmの赤褐色粘土片や、赤褐色粘土は途中でせん滅し、赤褐色粘土の直下の灰白色の細粒部も不連続で、いずれも連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織も明瞭に認められる。また、同様な灰白色の細粒部は、深度46.20m以下に深に様々な方向で認められる。 ●47.40~47.51m: 破砕部 47.40m: 粘土状部 (Hc-1) 上下端とも58°で直線的に連続。やや軟質で、径1mm石英粒を5%含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 47.40~47.51m: 凝質砂状部 (Hb) 上端65°、下端55°でいずれも直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒を20~30%含む。黄褐色を呈する。幅70mm。 47.51~47.80m: D 原岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残留している。砂、マンガンなどの夾入物をもつ割れ目が多い。 47.80~48.80m: CL 20~30°割れ目沿いに著しく軟化した硬さ「E」も所々に分布する。白色粘土細脈やマンガン脈を伴う。 48.80~49.17m: D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。 49.06mに62°の割れ目が分布。夾入物のない平滑な割れ目。割れ目の連続性は乏しい。 ●49.17~49.22m: 破砕部 49.17~49.20m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。軟質で、上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土脈を挟む。径2~3mm石英粒、径5mm粘土化岩片を20~30%含む。灰白色~明黄褐色を呈する。幅10~25mm。 49.20~49.22m: 粘土状部 (Hc-2) 上端30~36°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。軟質で、弱い橋状構造がみられる。径1~2mm石英粒を5~10%含む。明黄褐色を呈する。幅7~15mm。 49.22~49.27m: 上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。上位の破砕部に比べて硬質で、径2~10mmの石英粒や岩片も残る。原岩組織が明瞭に残る。岩片間に分布する粘土脈に系統性がない。下位の礫岩部との境界は漸移的である。にぶい黄褐色を呈する。 49.27~49.40m: D 20~30°割れ目が多く残留するが割れ目沿いに風化・砂状化が進む。 49.40~51.94m: CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30°前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交~斜交する60°前後の割れ目が分布。 51.06m以下は風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混入。 49.45m: 傾斜65°で幅15mmのアブライト脈を挟む。																														
		47		にぶい褐	淡黄							D'																											
		48		黄褐								CL'																											
		49		にぶい黄橙								D'																											
			にぶい橙								CL'																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
													0	10	20	30	40												50						
51			+	にぶい橙			cg	δ	3	50.12~50.15m: 傾斜50°程度。幅10~20mmで岩片化した赤褐色部を伴う。	CL'																								
																														Dg					
52			+	灰褐			cg	γ	2	51.06~51.94m: 割れ目や密着度が低い層に割れ目が多い。潜在割れ目も褐色化している。 51.24~51.62m: 割れ目挟在物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目沿いに幅1mm砂状化するものが多い。所々に幅0.5~1mmで密着した石英脈が分布。 51.63m: 15°割れ目沿い厚さ10mmが砂状化。	D'																								
																																	Eg		
53			+	花崗斑岩			dg		3	●52.72~52.81m: 破砕部 52.72~52.80m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端56°で直線的に、下端14°で波打って連続。径5~10mm岩片(硬さ「D」)と岩片間の幅1~2mm脈状~径2~5mm斑点状粘土部からなる。明褐色を呈する。幅40~90mm。 52.80~52.81m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端14°で波打って、下端14°で直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒。径2~3mm粘土化岩片を10~20%含む。灰白色を呈する。幅7~10mm。 52.81~53.17m: D 変質し、軟質化している。30~50°程度の割れ目がみられる。 ●53.17~53.22m: 破砕部 53.17m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上下端29°で直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒を10%程度含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 53.17~53.22m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続。径5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。全体に明褐色を呈するが、上下端付近にはマンガン鉱染を伴い黒褐色化する。幅40mm。 53.22~53.45m: CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。 53.45~53.54m: D 締った砂状を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。 53.54~56.66m: CL 傾斜30~50°の割れ目が主体となる。 53.87~54.10m: 石英が多く晶出し径10~20mm斑点状~幅5~15mm・45~65°の脈状で分布する。 53.87~54.00m: 建築でレンズ状の石英も分布する。 54.00~54.60m: 石英脈なし割れ目沿いに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴い黒褐色を帯びる。 54.82m: 傾斜50°で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺は一部緑色化する。	D'																								
54			+	にぶい橙			cg	δ	3	53.17~53.22m: 破砕部 53.17m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上下端29°で直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒を10%程度含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 53.17~53.22m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続。径5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。全体に明褐色を呈するが、上下端付近にはマンガン鉱染を伴い黒褐色化する。幅40mm。 53.22~53.45m: CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。 53.45~53.54m: D 締った砂状を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。 53.54~56.66m: CL 傾斜30~50°の割れ目が主体となる。 53.87~54.10m: 石英が多く晶出し径10~20mm斑点状~幅5~15mm・45~65°の脈状で分布する。 53.87~54.00m: 建築でレンズ状の石英も分布する。 54.00~54.60m: 石英脈なし割れ目沿いに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴い黒褐色を帯びる。 54.82m: 傾斜50°で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺は一部緑色化する。	CL'																								
																																			Dg



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																									
															0	10	20	30	40												50																																								
		56	+	花崗斑岩							55.00m: 傾斜50° で幅2mmのマングンを挟む。		CL'																																																										
		57									にぶい橙										55.25m: 55° のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25~56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目沿いの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。																																																		
		57																			にぶい橙										56.43~56.47m: 35~40° 割れ目沿いに軟化し、硬さ「D」を呈する。																																								
		57																													にぶい橙										56.66~56.84m: D 風化で締った砂状化呈する。径10~20mmの硬さ「D」の岩片が硬質に残留する。																														
		57																																							にぶい橙										56.84~58.77m: CL 56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。																				
		57																																																	にぶい橙										57.30m以下では、割れ目沿いに風化・砂状化が進む。										
		57									にぶい橙											57.75~57.90m: コアチューブ引上時に離脱コア化したものと推定される。																																																	
		57																			にぶい橙									57.90~58.34m: 硬さ「C」岩片主体。57.96m及び58.05mにそれぞれ45°、50° で幅1~2mm石英脈が密着して分布。各割れ目沿いに軽微なマンガン脈染染する。																																									
		57																												にぶい橙										58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化。58.34~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。一部の割れ目沿いで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。																															
		57																																						にぶい橙										58.77~59.82m: D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。																					
		57																																																にぶい橙										59.18m: 20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土挟む。											
		57	にぶい橙								59.28~59.48m: コアの擾乱により割れ目が消滅している。																																																												
		57									にぶい橙										59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1mm)挟む。																																																		
		57																			にぶい橙										●59.82~59.85m: 破砕部 (D-1) 59.82~59.85m: 粘土混じり岩片状部 (H)																																								
		57																													にぶい橙										上端22° 一部不明瞭で波打って、下端28° で直線的に連続。径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。幅30mm。																														
		57																																							にぶい橙										59.85m: 粘土状部 (Hc-1) 上端28°、下端28° でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒をわずかに (5%以下) 含む。灰褐色~灰白色を呈し、織状構造がみられる。幅5~7mm。																				
		57	にぶい橙									59.85~60.09m: CL																																																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位試験 (孔内水平応力)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
															0	10	20	30	40												50						
							D <sub>g</sub>	v <sub>g</sub> c <sub>g</sub> δ		3	60.54m以浅は割れ目沿いに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。前者では、割れ目沿いにマンガン鉱染を伴う。60.32~60.46m間は黄色味を帯びる。	0																									
61							C <sub>g</sub>						8 [8]	CL'																							
											60.99~61.39m: CH 堅硬。割れ目に挟在物挟まない。																										
62													12 [12]																								
							B <sub>g</sub>	b <sub>g</sub> γ		2	61.38~63.61m: CM 上端部の61.38~61.42m間と62.82m以深は、割れ目沿いに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物はほとんど分布しない。																										
							IV <sub>g</sub>						10 [10]	CM'																							
											62.53~62.57m: 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが、砂状化や粘土化による劣化は伴わない。																										
63								c <sub>g</sub> δ		3			10 [10]																								
							E <sub>g</sub> VI <sub>g</sub> dg	d <sub>g</sub> ε			63.61~64.00m: D 割れ目沿いの風化が著しく進み砂状化する。径10~60mm硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が残留している。 63.90~63.94m: 60° 幅1~3mm石英脈が2条分布。																										
64							C <sub>g</sub> V <sub>g</sub>						16 [16]	D'																							
							B <sub>g</sub> IV <sub>g</sub>	c <sub>g</sub> δ		2	64.00~64.33m: CL 50~60°と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部では径10mm程度に細かく岩片化する部分もある。 64.33~66.07m: CM 割れ目の多くは割れ目沿いに薄く砂状化する。																										
													16 [16]	CM'																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図										原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピセット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																	
															試験																																					
66						Bg	IV <sub>E</sub>	δ			65.22~65.30m: 40°と70°割れ目が交差し、幅10~20mmと風化砂状部が拡大している。また、わずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。 65.90m: 径20mmと大型な石英珪晶が晶出。 66.07~66.62m: CL 風化したゆる割れ目や密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの軽打で細片化する。 66.62~67.14m: D 径5~20mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。 66.85m以深では原岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。 66.97m: 傾斜55°で幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む。 67.14~67.27m: CL 50°割れ目沿いに軟化が進む。 67.27~67.80m: CM 割れ目沿いに砂状化するものが多い。 67.40~67.47m: 径5~10mmに砕け角礫状化する。 67.80~67.93m: D 50~60°割れ目沿いに砂状化し、径10mm硬質岩片を含む砂礫状を呈する。 67.93~68.15m: CL 45°割れ目沿いに薄い砂状部を挟む。 68.15~68.60m: CM 割れ目に挟在物は分布しない。 68.43~68.49m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で、径5~20mm礫状~片状に砕けているが砂や粘土は挟まない。 68.60~69.05m: D 軟化著しい硬さ「E」であるが、原岩組織や割れ目は明瞭に残留している。 68.60~68.65m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で砂状化している。 68.79~68.96m間は硬さCの硬質部を含む。 68.96~69.06m: 風化が著しく明黄色を呈する。 69.05~69.56m: CL 30~50°割れ目主体。密着度の低い潜在割れ目も多く含む。割れ目沿いに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。 69.07~69.10m: 幅30cmでマンガンが濃集する。 69.56~69.70m: D 少量の白色粘土細脈を伴う。 ●69.70~69.73m: 砂礫部 69.70m: 粘土状部 (Hc-1) 上下端55°で直線的に連続。軟質で、にぶい黄褐色を呈する。幅1mm。 69.70~69.73m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。径3~10mm硬さE (粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。灰黄色を呈する。幅23mm。 69.73~74.10m: CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物はほとんど分布しない。	0 50 100																																								
							Bg	IV <sub>E</sub>	γ																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	δ																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	ε																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	ε																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	δ																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	ε																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	ε																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	δ																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	ε																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	δ																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	ε																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	ε																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	δ																																											
							Bg	IV <sub>E</sub>	ε																																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
														0	10	20	30	40												50
71			+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	70.06~70.59m: 45° 割れ目沿いに風化で砂状化する。	0	CL'																		
										70.43~71.27m: 硬さ「C」のうち、70.49~70.59mでは径5mmの白濁化した長石が多い。70.59m以深では少ない。																				10
72			+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	71.27~71.60m: 45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。71.37~71.50m: 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬化している。	0	CL'																		
										71.88m: 0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。																				
73			+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	72.10~72.74m: 硬さ「C」区間では割れ目挟在物はほとんど分布しない。長石の一部は白濁化する。	0	CL'																		
										72.74~74.10m: 硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含んでいる。割れ目沿いに風化、砂状化することがある。																				6
74			+	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	73.35~73.38m: 厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。	0	D'																		
										73.65~73.76m: 30° と60° の割れ目が交差し、径10~50mmの岩片状コアを呈する。																				8
74			+	花崗斑岩	にぶい黄橙	Vg	dg	ε	3	74.10~74.36m: CM	0	D'																		
										●74.36~74.50m: 破砕部 74.36~74.40m: 礫質砂状部 (Hb) 上端27° で直線的に、下端30° で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5mm岩片を約10%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅0~30mm。 74.40~74.41m: 粘土状部 (Hc-1) 上端30°、下端30° でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに (5%以下) 含む。灰褐色を呈する。幅7mm。 74.41~74.50m: 礫質砂状部 (Hb) 上端30° で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅75mm以上。 74.50~75.57m: D 74.50~75.00m: コアチューブ引き上げ部周辺で礫状コアで採取され、割れ目状況など不明。																			6	(6)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記号	備考	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																		
															N	10	20	30	40																																																																																																																																																																																																																																													
		76	花崗斑岩	灰褐		Vg	cg	δ	3	75.00~75.57m: 原岩組織は残置しているが、多くの割れ目は消滅している。	0	50	D																																																																																																																																																																																																																																																			
		77								花崗斑岩																						灰褐		Vg	dg	ε	75.57~76.00m: 破碎部	0	50	D																																																																																																																																																																																																																								
		78																																			花崗斑岩																							灰褐		Vg	cg	γ	75.57~75.71m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)	0	50	D																																																																																																																																																																																												
		79																																																															花崗斑岩																							灰褐		Vg	cg	ε	75.71~75.73m: 縦混じり粘土状部 (Hc-2)	0	50	D																																																																																																																																																																
																																																																																													花崗斑岩																							灰褐		Vg	cg	γ	75.73~75.93m: 縦質粘土状部 (Hb)	0	50	D																																																																																																																																				
																																																																																																																									花崗斑岩																							灰褐		Vg	cg	ε	75.93~76.00m: 粘土混じり~粘土質岩片状部 (Hj)	0	50	D																																																																																																								
																																																																																																																																																					花崗斑岩																							灰褐		Vg	cg	δ	76.00~76.91m: D	0	50	D																																																																												
																																																																																																																																																																																	花崗斑岩																							灰褐		Vg	cg	γ	76.91~77.19m: CL	0	50	D																																																
																																																																																																																																																																																																													花崗斑岩																							灰褐		Vg	cg	δ	77.19~78.00m: D	0	50	D																				
																																																																																																																																																																																																																																									花崗斑岩																							灰褐
			花崗斑岩	灰褐		Vg	cg	δ	77.10m: 傾斜75° 幅1mmの石英脈を挟む。		0	50	D																																																																																																																																																																																																																																																			
									花崗斑岩	灰褐																							Vg	cg	γ	77.00~78.43m: CL		0	50	D																																																																																																																																																																																																																								
																																				花崗斑岩	灰褐																								Vg	cg	ε	78.00~78.43m: CL		0	50	D																																																																																																																																																																																												
																																																																花崗斑岩	灰褐																								Vg	cg	δ	78.43~78.72m: D		0	50	D																																																																																																																																																																
																																																																																												花崗斑岩	灰褐																								Vg	cg	ε	78.72~78.87m: 破碎部		0	50	D																																																																																																																																				
																																																																																																																								花崗斑岩	灰褐																								Vg	cg	γ	78.87~79.27m: 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。傾斜85~90°の割れ目が分布する。		0	50	D																																																																																																								
																																																																																																																																																				花崗斑岩	灰褐																								Vg	cg	ε	79.27~80.66m: 硬さ「C」主体。上端側の79.27~79.59mは硬さ「B」と堅硬。		0	50	D																																																																												
																																																																																																																																																																																花崗斑岩	灰褐																								Vg	cg	δ	79.54m: 傾斜50° で幅0.5~1mmの灰白色粘土を挟む。		0	50	D																																																
																																																																																																																																																																																																												花崗斑岩	灰褐																								Vg	cg	γ	79.69~79.95m: 褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質。		0	50	D																				
																																																																																																																																																																																																																																								花崗斑岩	灰褐																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └─ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) 図 ( N値 ~ 深度 )					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																			
														0	10	20	30	40												50																																		
81			花崗斑岩	灰褐	Cg	IVε	γ		γ	80.30~80.40m: 割れ目沿いに砂状化が進む。 80.30~80.35m: コアチューブ引上げ時に発生した角礫状コア。	0 50 100																																																					
82																																					81.17m: 55° 割れ目に厚さ10~15mmで砂と褐色粘土状。挟在物中と割れ目周辺に径0.5mm以下の微細な白雲母伴う。周辺は幅1cm程度緑色化している。																											
83																																					81.82~81.87m: コアチューブ引上げ部で締った砂礫状とする。 81.87~82.51m: 割れ目沿いに砂状化する部分も含まれる。10~30°と50~70°程度の割れ目がみられる。																											
84										82.51~82.62m: D 風化で砂状化する。径0.5~1cmの花崗斑岩片が疎状に分布する。 82.62~82.94m: CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2mm白色粘土脈状。 82.94~84.09m: CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。割れ目の挟在物は少ない。30~50°と70~90°の割れ目が3~10cm間隔で分布する。 83.30~83.47m: 長石の一部が白濁化する。 84.07~84.09m: 上端45°、下端65°割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。厚さ1~10mmで厚さ3mmレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。 84.09~84.92m: CH 60~80°の高角度の「ゆ着割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。 84.50m: 36°割れ目の一部に厚さ2~3mmのマンガンを伴う。 84.82~84.92m: コアチューブ引き上げ時の擾乱により、割れ目交差部で一部片状コア。岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。 84.92~85.38m: CL 下位破砕部の直線的なせん断面と同方向の50~60°割れ目やゆ着割れ目が多い。																																																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ベットの	給戻数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
														(N)	(図)																	
86			花崗斑岩	灰褐	Cg	IVε	cg			85.01m: 幅1mm以下、22°石英脈が50°割れ目と斜交して連続。 ●85.38~85.41m: 破碎部 85.38~85.41m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端45~50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端47°で直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒と径3~5mm粘土岩片と基質の砂状~粘土状部からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅20~25mm。上端の割れ目沿いにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m: 粘土状部 (Hc-1) 上端47°、下端47°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をごくわずかに(5%以下)含む。灰黄褐色を呈する。幅2mm。 85.41~85.92m: CL 上位の破碎部の直線的なせん断面と同方向の40~60°割れ目主体、砂や粘土を挟む。所々、割れ目沿いに幅1~2cm程度緑色化を呈する。 85.92~86.43m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大。径10~30mm硬さ「C」。岩片を多量に混えた砂状を呈する。 86.43~86.86m: CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物はほとんど分布しない。 86.86~87.20m: CL 50~60°割れ目沿いを主体に軟化が進む。断片的に硬さ「C」岩片も疎状に残留している。 87.20~87.51m: D 風化で締った硬質砂状を呈する。幅1~3mmの橙色粘土も脈状に分布する。	0	CL'																				
87				にぶい黄褐	Dg			δ	3																							
				明黄褐	Eg	VIε	dg		ε																							
88				灰褐	Bg	IVε	cg		γ	2	87.51~93.53m: CL 割れ目沿いに風化が進んでいる。全体に硬さ「C」の岩片が主体である。割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンを含んでいることが多い。 87.81~87.90m: 傾斜60°程度で細片化著しい。マンガンを伴う。 87.90~88.51m: 硬さC主体、傾斜20°と50°の割れ目が交差し細片化している。 88.06m: 傾斜52°で幅2mmの赤褐色粘土を挟む。周辺は幅5mm程度で緑色化している。	0	D'																			
				明黄褐	Eg	VIε	dg		ε																							
89				灰褐	Cg			δ	3		88.51~89.10m: 40~50°の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土挟む。それと60°斜交~直交する割れ目や幅1mm石英脈も分布。	0	CL'																			
				明黄褐	Bg	IVε	cg		γ	2																						
				明黄褐	Dg	Vε		δ	3		89.25~89.56m: 上下に比べやや割れ目が少なくなる。	0																				
				明黄褐	Bg	IVε		γ	2		89.56~89.86m: 割れ目沿いに風化が進み全体脆くなる(硬さD)。	0																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位試験 (孔内水平試験)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
															0	10	20	30	40												50	
91	46.30	94.07	+	花崗斑岩	灰褐		Bg IVg	γ	2		90.70~91.00m: 傾斜80° の割れ目が発達する。	7																				
							Cg Vg	δ	3	7																						
92	46.30	94.07	+	花崗斑岩	明褐灰		Bg IVg	γ	2	91.16~91.25m: 低角度割れ目と高角度割れ目が交差し、径10mm前後の細岩片状に砕けている。下端にマンガン鉱染伴う。	6																					
							Cg Vg	δ	3		6																					
93	46.30	94.07	+	花崗斑岩	明褐灰		Bg IVg	γ	2	92.32m: 53° 割れ目沿いに径0.5mm前後の鐵礫(セリサイト?)が晶出している。周辺は幅3mmで緑色化する。	4																					
							Cg Vg	δ	3		4																					
94	46.30	94.07	+	花崗斑岩	暗緑灰		Bg IVg	γ	2	92.60~94.07m: 傾斜30~90° の割れ目にマンガンを挟むことが多い。	5																					
							Cg Vg	δ	3		5																					
94	46.30	94.07	+	花崗斑岩	暗緑灰		Eg VIg	dg		93.53~93.61m: D 割れ目沿いに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。	5																					
							Dg	δ	3		5																					
94	46.30	94.07	+	花崗斑岩	暗緑灰		Vg cg			94.00~95.85m: CL 94.07~94.88m: 上下端65° で貫入するアブライト。上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。貫入面(65°)に60° 斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の模様(65~60°)をもつ。直上の花崗斑岩と直下のアブライトに破砕や変質は与えていない。	6																					
							Cg	δ	3		6																					
					明褐灰					94.88~97.00m: アブライト 94.88~95.67m: 傾斜30~60° の割れ目の一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。																						



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアカ形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コアカ長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( N値~深度 ) 試験					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															0	10	20	30	40												50							
				明褐灰		Cg	Vg	δ	3		95.22~95.25m: 割れ目沿いに砂状化・マンガン伴う。 95.30~95.45m: 緑色帯びる。	0	CL'																									
96				アブライト		Bg	IVg				95.85~96.58m: CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。傾斜10~20°とそれと直交する50°の割れ目がみられる。 96.00~96.10m: 割れ目沿いに幅1~2mm砂状化し、灰白色粘土脈も挟む。	50	CM'																									
		48.37	97.00	灰褐		Cg	Vg	γ	2		96.58~97.11m: CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。 96.71~96.76m: 傾斜50°の割れ目が密集し細片化する。コアは軟質である。	10																										
97				花崗斑岩		Bg	IVg				97.00~140.00m: 花崗斑岩 全体に珪化し、組織が不明瞭になっている。所々、アブライトを挟む。	10		CL'																								
		48.77	97.57	にこい橙 (赤褐色)		Eg	Vg	ε	4		97.57~101.85m: アブライトを挟む。 花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目。下端90°で付着している。 97.57~97.88m: D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状。下端付近の97.85mに40°幅1~5mm赤褐色藍物脈が分布。全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きくうねった割れ目が密集する。 97.88~100.51m: CM 硬質で風化と変質も弱くなる。密着度が低い割れ目やゆる割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物はほとんど認められない。 97.88~101.00m: 割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	10																										
98				アブライト		Bg	IVg	bg	γ	2	97.88~100.51m: CM 硬質で風化と変質も弱くなる。密着度が低い割れ目やゆる割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物はほとんど認められない。 97.88~101.00m: 割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	10		CM'																								
99				褐灰		Bg	IVg	bg	γ	2	99.03m: 35°割れ目に微細な黄鉄鉱が晶出している。	10																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
															N	値	0	10	20												30	40	50
101	51.34	101.20	[ 花崗斑岩 ]	アフライト	褐灰	Bg	IVg	bg	γ		100.00~100.51m: ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。	0	CM'																				
											100.51~100.72m: CL 風化で一部割れ目沿いに砂状化し、幅5~10mmでマンガン鉱染も受ける。																						
											100.72~102.35m: CM 割れ目には挟在物はほとんど認められない。一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全体に径2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。																						
102	51.62	101.60	[ 花崗斑岩 ]	アフライト	IVg					101.20~101.60m間は斑晶がやや多く花崗斑岩となる。アフライトとの境界は漸移的である。	0	CM'																					
										101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目沿いに片状~礫状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。																							
										101.61~101.72m: 傾斜70~80°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む。																							
103	51.80	101.85	[ 花崗斑岩 ]	アフライト	IVg					102.05~102.35m: 高角度で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。	0	CH'																					
										102.35~105.00m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目沿いに薄く砂状化した粘土脈やマンガンを含み、全体では挟在物はほとんど含まない。径2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が点在する。																							
										102.65m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈を伴う。 102.75m: 傾斜50°の割れ目に沿って白濁化している。																							
104			[ 花崗斑岩 ]	アフライト	Bg					102.65m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈を伴う。 102.75m: 傾斜50°の割れ目に沿って白濁化している。	0	CH'																					
										103.30m: 傾斜70~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。																							
										103.52~103.54m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。																							
										103.98m: 傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している。																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															( N値 ~ 深度 ) 図																						
							IV <sub>E</sub> cg				105.23~105.25m: 65° 割れ目は幅1~3mmの緑色粘土脈挟む。破碎は伴わない。	0			0	10	20	30	40	50																	
106							III <sub>E</sub> g				105.72m: 傾斜60° で幅1mmの緑灰色粘土を挟む。	23																									
							Bg IV <sub>E</sub> cg				106.30~108.50m: 所々、長石の緑泥石化が見られる。 106.33m: 60° 割れ目沿い幅5mmが細片化する。粘土は伴わない。	14																									
							III <sub>E</sub> g																														
107							IV <sub>E</sub> g				107.40~107.83m: CM 107.52~107.55m: 各々40° , 53° 割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。	1																									
							Cg V <sub>E</sub> cg				107.83~108.24m: CL 風化で割れ目沿いに軟化が進む。																										
108											108.20m: 50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン筋染受ける。 108.24~109.99m: CM 硬質であるが、ゆる割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。割れ目には挟在物はほとんど分布しない。	9																									
											108.64~108.76m: アブライト脈を挟む。上端・下端とも50° 程度で境界は明確でゆるしている。	9																									
109							Bg IV <sub>E</sub> bg				109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長さ10~30mm主体の硬質岩片化している。	9																									
											109.99~110.43m: CH ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。	9																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアカ形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・r MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
														( N ) 値	0	10	20	30												40
111	58.07	110.72	+	花崗斑岩	褐灰	IIIg				110.43~112.04m: CM 堅硬で割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	20 133	CM'																		
		110.72~111.54m: アブライト脈を挟む。上端15°で機械割れ、下端45°で湾曲し、境界は明瞭で一部ゆ着している。																												
112	58.65	111.54	+	花崗斑岩	暗緑灰 にふい橙	IVg bg		γ	2	111.13~111.37mは緑泥石化で暗緑色を呈する。	1	CL'																		
		111.37~111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるペグマタイト。兩者の境界部はよく密着し、破碎や変質は伴わない。																												
113	58.65	111.54	+	花崗斑岩	明褐灰	Dg		cg	3	112.04~112.83m: CL 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体。割れ目交差部の一部では岩状化する。 112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目沿いは風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面沿いは薄く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。	7 10	CL'																		
										112.83~113.51m: CL 割れ目沿いに砂状化が進むことが多い。																				
114	58.65	111.54	+	花崗斑岩	灰褐	Eg VIg Cg Vg		dg	δ	113.03~113.31m: 消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。 113.10~113.13m: コアチューブ引上げ時に乱され、硬状コア化している。全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う。	4 10	D'																		
										●113.51~113.60m: 破碎部 113.51~113.56m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。径5~10mm硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化する。灰褐色を呈する。幅20~35mm。 113.56m: 粘土状部 (Hc-1) 上端66°、下端66°でいずれも小さく波打って連続。途中で幅1mmの粘土に分岐する。軟質で、径1mm石英粒わずかに含む。灰白色を呈する。幅1~2mm。 113.56~113.60m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端66°で小さく波打ち、下端63°、幅1mm以下のにふい橙色の直線的な軟質粘土脈として連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。このうち、113.58~113.60mは硬質砂状を呈し、灰褐色を呈する。幅15~20mm。 113.60~113.70m: D 径2~20mmの亜角縁を30%程度含む暗褐色砂状部。下層境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。																				
114	58.65	111.54	+	花崗斑岩	明褐灰	Cg Vg		cg	2	113.70~114.00m: 傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂礫状を呈する。	5 10	D'																		
										114.00~114.75m: CL 高角度80°と低角度20°の割れ目が交差し概ね30mm以下に岩片化。割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける。一部は掘削時に岩片化したものを含む。 114.75~115.52m: D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。一部は掘削時に岩片化したものを含む。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( N 値 ~ 深度 ) 試験					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
														0	10	20	30	40												50									
116			花崗斑岩	明褐灰	Eg	VIg	dg	ε	3	115.28m以深では割れ目の一部が残留している。 115.52~118.63m : CL 60~70° の高角度割れ目と30° 前後の低角度割れ目が交差する。割れ目沿いの多くは砂状化する。一部は掘削時に岩片化したものを含む。	0	D'																											
117				にぎい褐	Cg				2	116.87~117.00m : 径10mm前後の塊状コア。これは掘削時に割れ目沿いの砂状部分が流失したためと推定される。 117.00~118.26m : 割れ目沿いに砂状化が進んでいる。岩片は径10~30mm 硬さ「C」主体。割れ目は60~70° とこれにほぼ直交する40° 前後が多く、交差部では径5mm前後に細片化するものもある。所々、幅1~3mmの灰白色粘土を挟む。 117.25m、117.82mなど、60~70° 割れ目は40° 割れ目を止めている部分がある。止めている割れ目に細粒部は伴わない。もしくは局所的にしか分布せず。割れ目周辺の原岩組織は明瞭に認められる。	3	CL'																											
118				にぎい橙	Dg					3	118.10~118.26m : 割れ目の一部は軽微なマンガン結晶を受ける。 118.26~118.63m : 上位よりも更に割れ目沿いの砂状化が進んでいる。厚さ1~2mmの白色粘土脈を網目状に挟む。	2																											
119				にぎい黄褐	Eg					3	118.63~118.94m : D 砂状化が著しくなり、締った砂礫状を呈するものが主だが、硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留。 ●118.94~119.12m : 礫砕部 118.94~119.10m : 砂混じり岩片状部 (H) 上端32°、下端60° でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60° 前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化する。にぎい黄褐色を呈する。 119.10~119.12m : 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端60° で直線的に、下端60° で波打って連続。軟質で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を10~20%含む。粘土中には、表面がマンガン化した径1mmの石英粒が多い。浅黄色を呈する。幅13~15mm。また、下端~上端へ斜交する幅2mmの軟質な黒色粘土脈が分布する。	4	D'																										
				灰褐	Bg	IVg		bg	γ	2	119.12~119.30m : CL 60~70° 高角度割れ目とこれに斜交する40° 割れ目が多く細片化するが、挟在物はほとんど分布しない。一部は掘削時に岩片化したものを含む。 119.30~120.78m : CM 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 119.30~120.00m間は傾斜30~60° 程度の割れ目が1~5cm程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10~30° 程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する。	0	CM'																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状	割れ目 の状態	風化 質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [ % ]	岩級 区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験 年月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノズル	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
													0	10	20	30	40											50													
121			花崗斑岩	灰褐			IV <sub>B</sub>		120.78~122.00m: CH		CH'																														
							III <sub>B</sub>		121.09~121.16m: アブライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明瞭な境界をもち、面はゆわいている。		CH'																														
122							B <sub>B</sub>	b <sub>B</sub>	β	2		122.00~125.06m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆわ着割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 122.36m: 傾斜52°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。																													
123							IV <sub>B</sub>					123.38m: 割れ目交差部で幅2~3mm細片状化するが、風化砂状部や粘土化部は挟まない。																													
124				褐灰					124.54m: 55°割れ目面に厚さ0.5mm、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rMPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															( N 値 )	( 図 )															
				花崗斑岩	褐灰	IV <sub>g</sub>	V <sub>g</sub>		β		125.06~125.28m: CL ゆ着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土は挟まない。	8 [8]																			
126																															
					にぶい褐	Bg	IV <sub>g</sub>		γ	2		125.28~127.68m: CM 開口割れ目と平行方向のゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、未風化。	10 [10]																		
127																															
					灰黄褐	Bg	IV <sub>g</sub>	cg	δ			127.16~127.25m: 径10mm前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10mmが径2~5mmで細礫状化し、風化で淡褐色化する。	9 [9]																		
128																															
					褐灰	Bg	IV <sub>g</sub>		γ			127.68~128.08m: CL 厚さ5~10mm程度の片状コア主体で、挟在物は下端部の128.05~128.08mが径3~5mm硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土など挟まない。一部は鋭削時に岩片化している。	8 [8]																		
129																															
												128.08~128.64m: CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。	11 [11]																		
											128.64~128.88m: CL 径10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目沿いに風化が進行していると推定される。	CH																			
											128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の中角度割れ目の交差部では径10mm前後に片状~角礫状化するが、砂状部や粘土化部は挟まない。																				
											129.91~131.93m: CH 一部のコアにはゆ着割れ目や密着割れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分離・細片化しないものが多い。																				

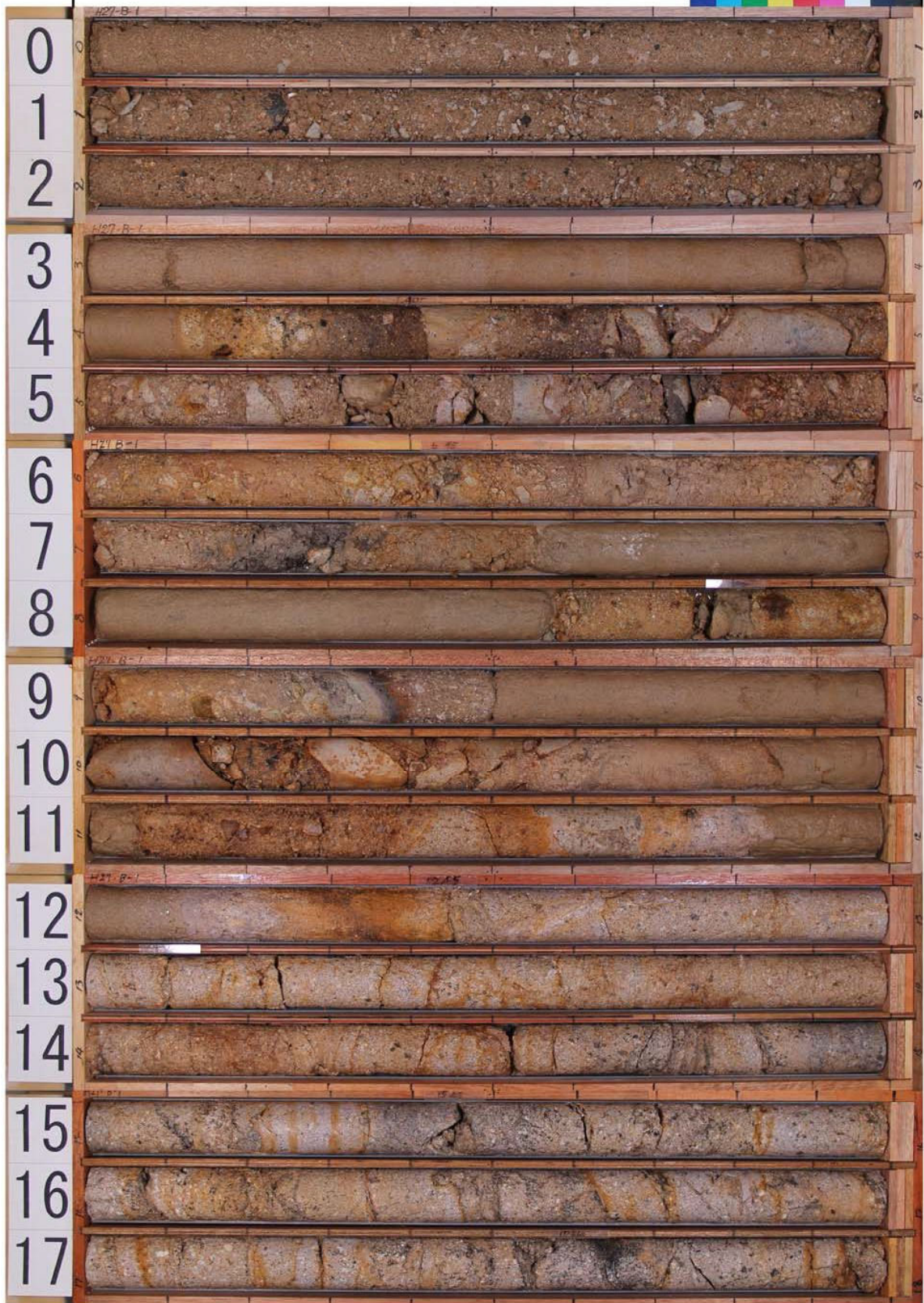


標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
														( N 値 )	( 図 )																		
			花崗斑岩							130.00~140.00m: 灼着割れ目が約10mm間隔で分布。																							
131							IIIg				131.40~131.52m: 径20~30mmに角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。																						
132							Bg	bg	β	2	131.93~132.07m: CM 灼着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部を挟むことがあるが、挟在物がない(b)割れ目が主体。 132.07~132.24m: 径10~20mm角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。同区間は珪質である。 132.18~132.33m: アブライト脈を挟む。上端はコアチューブ引き上げ部で不明。下端は0°で明瞭な境界をもち、面は灼着している。																						
133											133.20~133.25m: アブライト脈を挟む。上端、下端とも傾斜5°で明瞭な境界をもち、面は灼着している。 133.40~134.00m: 灼着した密着割れ目沿いに開口化し、径10mm前後に細かく砕けている。																						
134											133.82m: 60°割れ目沿い幅20mmが径3~5mmの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土は挟んでいない。 134.78m: 傾斜35°で幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。 134.87~134.91m: 傾斜56°、幅25mmで緑色化している。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 (cm) R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
													0	10	20	30	40												50										
136				花崗斑岩	褐灰				135.41m: 傾斜20°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。 135.45m付近: 傾斜55°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。	6 6	CM'																												
									Bg	β																													
137									IVg							137.00~138.07m: ゆる割れ目が多いが密度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。	1 1																						
									bg								6 6																						
138									Cg	γ						138.07~138.44m: CM 密度度の低い潜在割れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。長石の白濁化や割れ目挟在物はほとんど認められない。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。 138.44~138.80m: CH 堅硬、塊状、ゆる割れ目が多いが、密度が高くハンマー強打でも分離しない。	1 1																						
139			Cg						138.80~139.82m: CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。全体に割れ目挟在物はほとんど含まない。 138.93m: 60~70°厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着一部割れ目化して連続。 138.95~139.08m: 30~40°と70°割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は軽微ない。 139.18m以深は上位より風化と変質が進む。 139.31m: 72°割れ目扱い厚さ2~3mmマンガン鉱染発ける。	3 3																													
	78.77	140.00							●139.82~139.88m: 砕砕部 139.82m: 粘土状部 (Hc-1) 52°で直線的に連続。軟質で、石英粒、岩片を含まない。暗緑灰色~灰褐色を呈する。幅0.5~1mm。 139.82~139.88m: 砂混じり岩片状部 (Hj) 上端52°、下端52°でいずれも直線的に連続。径3~5mmに細かく岩片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。マンガン汚染し、暗緑灰色を呈する。幅40mm。 139.88~139.95m: D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。原岩組織は残留する。マンガン汚染著しい。 139.95~140.00m: CL 硬さ「C」岩片主体。	2 2																													

孔番 : H27-B-1

深度 0.00m ~ 18.00m





孔番 : H27-B-1

深度 18.00m ~ 36.00m





孔番 : H27-B-1

深度 36.00m ~ 54.00m





孔番 : H27-B-1

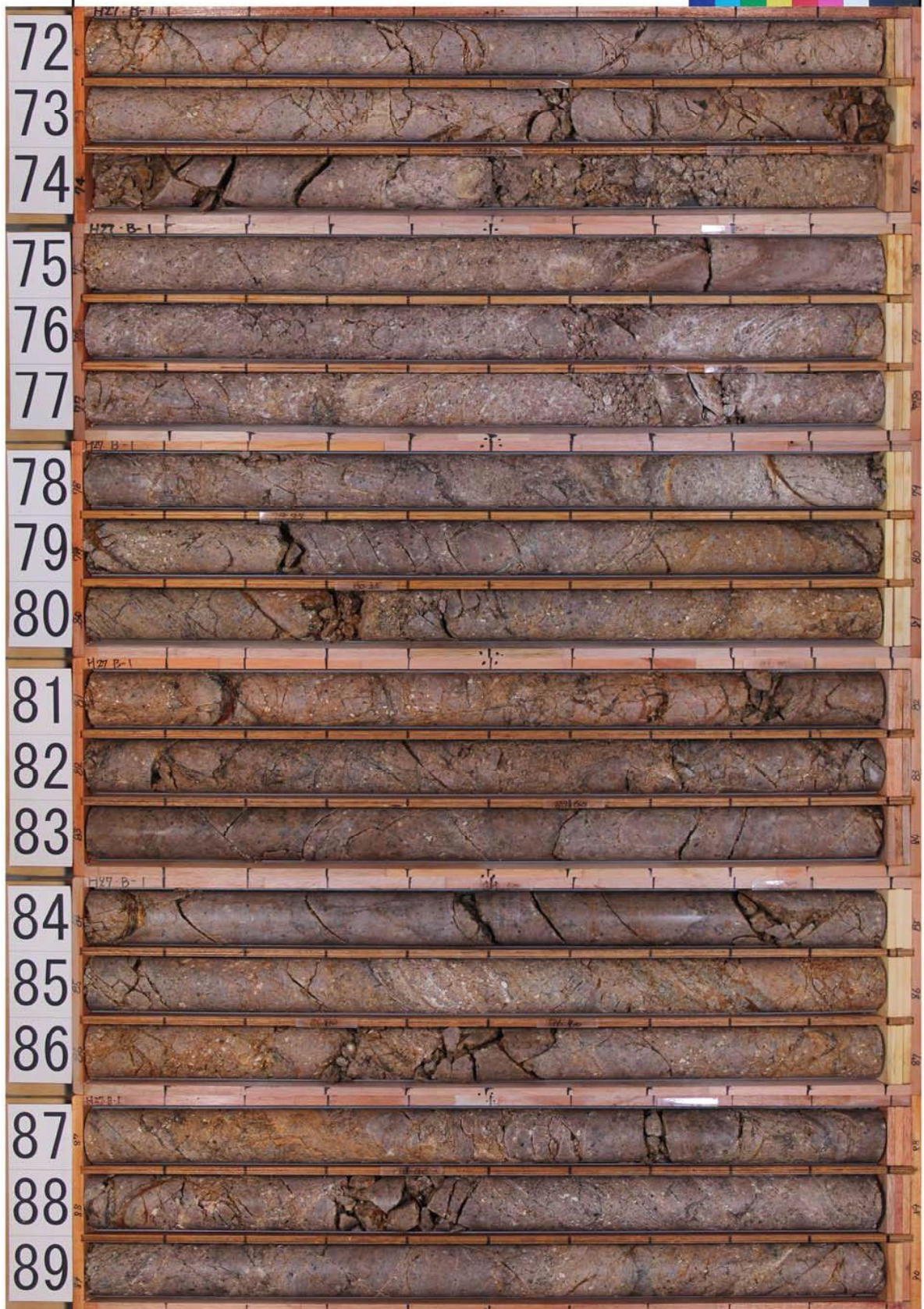
深度 54.00m ~ 72.00m





孔番 : H27-B-1

深度 72.00m ~ 90.00m





孔番 : H27-B-1

深度 90.00m ~ 108.00m





孔番 : H27-B-1

深度 108.00m ~ 126.00m





孔番 : H27-B-1

深度 126.00m ~ 140.00m



余白

H27-B-2

余白







標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 月	標準貫入) 試験					原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー リ ン グ	給 水 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)															
													( N 値 ~ 深度 ) 図																													
				コア欠如	にぶい黄橙																																					
		15.99	5.83						5.83~7.00m: 砂混じりシルト質粗粒砂主体で、6.80~7.00mは礫質粗粒砂からなる。																																	
	6			盛土	にぶい黄																																					
	7	15.04	7.17		にぶい黄橙				7.00~7.12m: 合板が分布する。 7.12~7.17m: 径8cmの花崗斑岩の角礫を含む。 7.17~7.41m: スライム砂混じりシルトからなる。軟質。 7.41~8.53m: スライム径10cm以下の花崗岩類の歪角~角礫からなる。コアの形状をなしていない。差異部は流出している。																																	
	8			コア欠如	にぶい褐				8.11~8.20m: スライムルーズなシルト質礫からなる。																																	
	9			コア欠如	灰褐				8.53~9.70m: スライム砂・礫混じりシルトからなる。軟質。下部は植物片が混じる。																																	
					褐灰				9.70~9.80m: スライム径8cmの花崗斑岩の礫からなる。 9.80~10.42m: スライム砂・礫混じりシルト~礫混じり砂からなる。軟質。植物片混じる。礫は径3cm以下の花崗岩類の角礫からなる。																																	





標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
													0	10	20	30	40												50	
		21	花崗斑岩 明褐灰			IV <sub>g</sub> D <sub>g</sub>			20.25m : 30° の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む。	0 50 100																				
		22							V <sub>g</sub> CG IV <sub>g</sub>				δ	21.67m : 0° の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟在する。上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。 21.79~26.82m : 硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。割れ目沿いに風化で砂状化する部分が多い。 21.90m : 径10mmの石英斑晶が80° の割れ目で横断される。80° の割れ目は1条ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。 22.10~22.50m : 硬さ「B」で硬質。	12 (12)	18 (18)	23 (23)													CL'
		23							B <sub>g</sub> CG V <sub>g</sub> D <sub>g</sub>					23.22m : 10° の割れ目に幅5mmで黄灰色のやや硬質な砂を挟在する。	15 (15)	19 (19)	27 (27)													
		24							CG IV <sub>g</sub> CG				γ	23.52m・30° と 23.82m・20° の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土脈を挟む。 23.89m : 25° の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟在する。	17 (17)															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																												
															0	10	20	30	40												50																											
		26	+					IVg Vg Cg	γ	2	25.41m : 20° 割れ目沿いに径0.5~1mmと微細な雲母 (セリサイト) が晶出している。	0 50 100																																														
		27									IVg																				26.82m以深は硬さ「D」が主体となる。	7 (0)																										
		28									cg																				27.04~27.90m : 割れ目面にマンガが付着する。	9 (0)																										
		29									Dg																				27.91m : 20° で幅1mmの石英脈が交差する85° の割れ目を横断する。また、27.88mの低角度の潜在割れ目も85° の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 28.02m以深、10mm間隔の風化した割れ目が発達し、片状~塊状化している。割れ目沿いに風化して砂状化することが多い。 28.24~28.94m : 割れ目に沿った風化・変質が見られる。 28.55m : 25° の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟在する。	3 (0)																										
							Vg				3																																															
											29.19m : 50° の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟在する。																																															

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 日 月	( 標準貫入 ) 試験					原 位 置 試 験 ( 孔 内 水 平 器 等 )	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	排 水 量 (L/分)								
													( N 値 ~ 深 度 ) 図																						
31			+	花崗斑岩	明褐色	Dg			30.10~30.82m: D 概ね径10mm以下に砕けている。風化で割れ目沿いに砂状化が拡大している。径5~30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、硬質な砂礫状を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土部も散在している。原岩組織や上部の割れ目は残留している。	0	CL'																								
					明褐色	Eg	Vg	cg																											30.82~31.15m: CL 割れ目沿いに砂状化することが多い。
					にぶい黄褐色	Dg																													
					にぶい褐色	Eg	Vg	dg																											
灰褐色	Dg																																		
32			+	花崗斑岩	灰褐色			31.91~31.96m: 25~30°の割れ目に軟質な幅1~3mmの褐色粘土を挟む。 32.45~32.59m: 8~48°の割れ目沿いに灰白色粘土を挟む。粘土は一部網目状に分布する。 33.00~33.25m: 粘土化が進み、原岩組織は不明瞭となる。 33.35~33.40m: 硬さ「D」の岩片主体。 33.60m: 5°で幅1mmの軟質な赤灰色粘土脈を挟む。 33.77m: 7°で幅5~8mmのマンガン鉱染部が脈状に分布する。 33.79~33.87m: 硬さ「D」の岩片主体。 33.96m以深は原岩組織が不明瞭な硬質な砂状部主体。割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。 33.97m: 25°の割れ目に幅2~4mmの褐色粘土を挟む。	1	D'																									
					明褐色	Eg	Vg																											cg	
					明褐色	Dg	Vg																											cg	
33			+	花崗斑岩	明褐色	Eg		●34.37~34.48m: 破砕部 34.37m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜13°で上端は直線的、下端は波打って連続。径2mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む。軟質。軟質な粘土は75°のせん断面と交差し、2mmみかけ右ズレに変位して切られている。マンガン鉱染を伴う。黒褐色を呈する。幅2~6mm。 34.37~34.48m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化〜硬さ「D」岩片を計30%程度含む。浅黄〜明赤灰色を呈する。幅90mm。 34.48~35.13m: CL 34.59m・29°と34.67m・50°の割れ目は68°で幅1mmのマンガン脈、一部石英脈を止めている。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	2	D'																									
					明褐色	Eg	Vg																											cg	
					明褐色	Dg	Vg																											cg	
34			+	花崗斑岩	明褐色	Dg		●34.37~34.48m: 破砕部 34.37m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜13°で上端は直線的、下端は波打って連続。径2mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む。軟質。軟質な粘土は75°のせん断面と交差し、2mmみかけ右ズレに変位して切られている。マンガン鉱染を伴う。黒褐色を呈する。幅2~6mm。 34.37~34.48m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化〜硬さ「D」岩片を計30%程度含む。浅黄〜明赤灰色を呈する。幅90mm。 34.48~35.13m: CL 34.59m・29°と34.67m・50°の割れ目は68°で幅1mmのマンガン脈、一部石英脈を止めている。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	3	CL'																									
					明褐色	Dg	Vg																										cg		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																												
															( N 値 ~ 深度 ) 図																																																																											
		36		花崗斑岩	明褐灰				3	cg	Vg	cg	CL'																																																																													
		37																														に い 橙					3	Dg		Vg	D																																																	
		38																																																												明褐灰				2	Bg		Vg	cg	CL'																			
		39																																																																																								
																																																																		2	Dg		Vg	cg	CL'																			
																																				2	Eg	Vg		cg	CL'																																																	





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチューブ ノズレット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																	
													(N	値	0	10	20												30	40	50														
46				明燐灰	Dg	cg	δ		45.10~45.25m: 硬さ「C」の硬質岩片が分布。																																				
					Cg																																								
					Dg	Vg	cg																																						
					Cg		γ		45.96~46.31m: 硬さ「C」で硬質。割れ目は幅1~3mm程度で砂状化する。																																				
					Eg	Vg	dg																																						
					Dg	Vg	cg	2																																					
					Eg	Vg	dg																																						
					Cg	Vg	cg	δ	46.73~47.50m: D 原岩組織と割れ目は消滅している。硬さ「D」主体の径3~10mmに細岩片化している。 46.73~46.85m: 割れ目沿いに砂状化が進み、硬さ「E」が主体。 46.90~47.06m: 風化による二次石英が径1~2mmの斑点状~幅1~2mmの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。																																				
					Eg	Vg	dg	ε																																					
					Dg	Vg	cg	δ	47.50~48.09m: CL 47.85m以達は硬さ「D」主体、47.85m以達は硬さ「C」主体で、47.85m以達は風化で割れ目沿いの一部は砂状化が進み、岩片自身も軟質化している。																																				
					Cg	IVg	γ																																						
					Eg	Vg	dg	4	●48.08~48.12m: 破砕部 48.08~48.12m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端53°、下端56°でいずれも直線的に連続。径1~3mmの石英粒。径3~5mmの硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや硬質。上端部にマンガン鉱染を伴う。灰黄褐色~黒褐色 (上端部のみ) を呈する。幅20mm。 48.12m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜56°で上下端とも直線的に連続。径0.5~1mmの石英粒を20%程度含む。やや硬質。黒褐色を呈する。幅1mm。マンガン鉱染を伴っている。 48.12~52.42m: CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体。																																				
					Cg	IVg	cg	γ																																					
					Eg	Vg	dg	δ																																					
					Cg	IVg		2																																					
					Dg	Vg	cg		48.12~48.51m: 60~70°の割れ目が主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。これらの割れ目は上位の破砕部と同方向に近い。 48.51~48.60m: 硬質な砂状化を呈する。 48.84~48.89m: 上端20°、下端33°の割れ目に囲まれ硬質な砂状化を呈する。 49.00~49.34m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、礫状コアを呈している。密着割れ目も風化してハンマーの打聲で分離し易い。硬さ「C」が主体であるが、風化で軟質化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。																																				
					Cg	IVg		δ																																					



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ( % )	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( N 値 ~ 深度 ) 試験					原位試験 ( 孔内水平膨脹 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															N 値 ~ 深度																					
			花崗斑岩	明赤灰	Eg	Vlg	dg		4		55.00m以浅は岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む。 55.00m以深は白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。 55.24~57.70m: CL 硬さ「D」。岩片が主体。割れ目沿いに風化が進む部分では硬さ「E」や硬質な砂状部も分布する。割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。	0	D'																							
56				明褐灰									3 (0)																							
				灰黄褐	Dg	Vg	cg					56.83~57.00m: 割れ目沿いの風化が進み、砂状化する。残留する硬さ「D」の径5~10mmの岩片とともに砂礫状を呈する。 57.00~57.45m: 密着度の低い割れ目が密集し、径10mm程度に細岩片化する。硬さ「C」の岩片も多く含む。	2 (0)																							
57				にぶい黄橙						δ		57.45~57.70m: 割れ目沿いに砂状化が進み、全体に上位より軟質化が進む。 57.70~57.99m: CL 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、一部は硬質な砂状部となる。	3 (0)	CL'																						
				にぶい褐	Cg							57.99~58.28m: CL 岩片は硬いが、20~30°の割れ目が10~30mm間隔で同方向に発達。マンガン鉱染も伴う。 58.28~58.73m: CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。	8 (0)																							
58					Bg	IVg	bg					58.73~59.71m: CL 割れ目沿いに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。																								
				灰褐	Dg	Vg	cg					59.35~59.54m: 硬さ「C」主体。	3 (0)																							
59					Cg	IVg	bg					59.71~60.00m: D 強風化で硬質な砂状部主体。径10mm前後の岩片が残留し、砂礫状を呈する。		D'																						
					Dg	Vg	cg																													
					Eg	Vlg	dg			e																										





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														( N 値 ~ 深度 ) 図																				
				花崗斑岩	灰褐					71.06~71.99m : CL		CM'																						
71										Bg IV <sub>g</sub> bg β 2																						71.06~71.99m : CL 30° と 60~75° の割れ目が交差し、交差部の一部では幅10~60mmで硬質な砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。	10	100
										Dg V <sub>g</sub> cg δ 3																						71.99~71.99m : CL	11	100
72																																71.99~76.11m : CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mmで挟むが、挟在物を伴わない割れ目が多い。	15	100
										Bg IV <sub>g</sub> bg β 2																						72.48~72.57m : 割れ目沿いに褐色化が進むが、硬質で砂状化はない。 72.57~73.16m : 長さ10cm以上の硬質コア主体。	18	100
73				73.20~75.00m : 20~30° と 60~70° の割れ目が交差し、交差部の一部で片状~角礫状化するが、砂状部や粘土状部は伴わない。	8	100																												
74				74.85~75.00m : 割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。																														





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															0	10	20	30	40												50			
81			+	花崗斑岩	灰褐	Cg	Vg	cg	γ		80.19~80.49m : CM 一部に密着度の低い割れ目を含む。 割れ目に挟在物は分布しない。	0 50 100	CL'																					
											80.49~83.12m : CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。ゆる割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布する程度。全体に径2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。長石の白濁化は殆んど認められない。																						1 20 100 100 160	CH'
											81.10~81.35m : 径2~5mmの斑点状にマンガン鉱染を受け、灰褐色を帯びる。劣化は伴わない。																							
82			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	bg	β	2	82.10~82.30m : 産化変質により径5~10mmの斑点状~幅10mmの脈状の石英が晶出し、上下位よりも硬質となっている。	45 100 160	CH'																						
										82.72~82.86m : 密着度の低い割れ目を含む。																							11 11 100 160	CL'
83			+	花崗斑岩	灰褐	Dg	cg	δ	3	83.12~83.79m : CL 83.46m以深は20~50°の割れ目が多く、割れ目沿いに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「D」に軟質化する。83.46m以深は割れ目は多いが、硬質で挟在物は殆んど分布しない。	11 11 100 160	CL'																						
										83.79~84.43m : CM 堅硬。84.35~84.38m間が10~15°の割れ目沿いにごく薄く風化、砂状化する以外は割れ目に挟在物は分布しない。一部にゆる割れ目が分布するが、密着度が高く、ハンマーの打撃で分離しない。																							12 12 100 160	CL'
84			+	花崗斑岩	にぶい褐	Cg	Vg	cg	γ		84.43~84.61m : CL 硬さ「C」の岩片主体。多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化するが、粘土化はない。	12 12 100 160	CL'																					
											84.61~85.50m : CL 硬さ「D」岩片主体。一部で割れ目沿いに風化、砂状化が進む部分もある。長石の白濁化が目立つ。																						12 12 100 160	CL'

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		試験	原位試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)	水量 (L/分)						
															N	値																		
86			+			Dg	Vg	cg	3	3	85.15m : 50° で幅5mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。 85.24~85.35m : 砂状化が進む。40°前後の割れ目が残留する。	0			0	10																		
87			+	花崗斑岩		Dg	Vg	cg	4	4	85.50~85.58m : D 粘土化が進む。 ●85.58~85.76m : 破砕部 85.58~85.63m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上線40° で直線的に、下線48° で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mmの硬さ「D」岩片と岩片間の粘土状部からなる。上端付近に幅5mmの石英脈が下位のHo-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。灰黄色を呈する。幅35mm。 85.63~85.64m : 雑混じり粘土状部 (Ho-2) 傾斜48° で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mmの石英粒。径5mmの硬さ「D」岩片を10%含む。軟質。淡黄色を呈する。幅5mm。 85.64~85.76m : 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 上線48° で波打って、下線32° で、幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈として直線的に連続。上位のHo-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色粘土脈が分布。85.68m・53° のシャープなせん断面が分布し、これに深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。淡黄~にぶい褐色を呈する。幅100~120mm。 85.76~87.47m : CL 86.52m以深は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」の岩片主体で、後者では一部に短柱状コアも含む。前者では一部の割れ目沿いが砂状化する。 85.76~86.00m : 径10mmの斑点状や幅2mm・20° の脈状に石英を含む。 87.47~87.89m : CH 堅硬。長石の一部は白濁化する。一部でゆるぎ割れ目を含むが、密着度が高くハンマーの強打で分離しない。 87.90~88.38m : CL 一部の割れ目沿いは風化で薄く砂状化する。密着度の低い潜在割れ目が多く、ハンマーの打撃で潜在割れ目沿いに分離・細片化し易い。	0	50	100																				
88			+			Dg	Vg	cg	2	2	●88.38~88.43m : 破砕部 88.38~88.42m : 砂混じり岩片状部 (Hj) 傾斜50° で、上端は直線的な密着割れ目、下端は直線的に連続。下位のHo-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが、一部の岩片間では砂状化する。にぶい褐色を呈する。幅35mm。 88.42~88.43m : 粘土状部 (Ho-1) 傾斜50° で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を殆んど含まない。軟質。明黄褐色を呈する。幅5mm。 88.43~88.88m : CL 20~40° の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。 ●88.88~88.94m : 破砕部 88.88~88.92m : 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 傾斜30° で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHo-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土~砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。幅25~35mm。 88.92~88.94m : 雑混じり粘土状部 (Ho-2) 傾斜30° で、上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒。径5mmの粘土化岩片を計15%含む。軟質。灰白色を呈する。幅15~20mm。 88.94~89.69m : D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以深は径5~20mmの硬さ「C」「D」の岩片が残留し、硬質な砂状部を基質とする砂礫状を呈する。原岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」の岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留している。割れ目は40~60° が主体。	0	50	100																				
89			+	灰褐		Dg	Vg	cg	3	3		0			0	10																		





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														0	10	20	30	40												50							
101			花崗斑岩	緑灰	Bg			β	2	100.52~101.32m: 割れ目沿いの風化・砂状化が進む。岩片も軟質化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。	CL'																										
					Vg	cg			δ			3	100.84~100.89m, 101.23~101.32m: 割れ目沿いに砂状化が拡大。径5~10mmの岩片と共に砂礫状を呈する。																								
102				緑灰	Bg	IVg	bg		β		101.32~102.05m: CM ほぼ未風化で、挟入物は分布しない。一部に密着度の低い割れ目が分布している。	CM'																									
					Cg		cg			2	102.05~104.65m: CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」で軟質化が進んでいる。102.05~102.41m: 約10mm間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。 102.41~102.94m: 硬さ「B」の岩片主体。割れ目沿いに幅1~3mm程度で薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。																										
103				灰褐	Dg				δ	3	102.94~103.17m: 20~30°の割れ目沿いに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」で軟質化する。	CL'																									
					Bg	Vg			β	2	103.17~103.70m: 割れ目沿いの砂状化や挟入物は認められないが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多い。																										
104				明褐灰	Dg				γ	3	103.70~104.65m: 風化が進み、岩片も含め、全体が軟質化している。所々に幅1~2mmの軟質な白色粘土を脈状に挟む。	CM'																									
					Bg	IVg	bg		β	2	104.65~107.15m: CM 105.14~105.19m間を除き、硬質で挟入物は殆んど分布しない。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
													0	10	20	30	40												50								
106			花崗斑岩	Bg	Vg	bg	β	2	105.14~105.19m: 上下端とも40°の割れ目に囲まれて、硬質な砂状~径2~3mmに細片化する。下端面に白色粘土がフィルム状に付着。区間内全体に径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が点在する。	←	CM'																										
														105.70~105.83m, 106.68~106.73m: 割れ目が交差し、径10~30mmに岩片化する。各割れ目は砂や粘土が付着していないほぼ未風化な面をもつ。	←																						
107														106.21~106.81m: ゆず割れ目が多くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは開口割れ目化している。	←																						
														107.15~107.62m: CL 割れ目沿いに径3~5mmに細片化する部分があるが、割れ目に砂状~粘土状の挟在物は分布せず。ほぼ未風化な面をもつ。面の一部は緑泥石化変質により淡緑色化するが、粘土は伴わない。	←	CL'																					
108														107.62~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。110.10~114.06m間は10~30mm程度の間隔で密着度の低い層に割れ目も含んでいる。ほぼ未風化で、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。108.00~110.10m間は、30~50°の割れ目が主体で、一部は交差して岩片状を呈する。	←																						
109								108.57~108.60m: 40°の割れ目沿いに径1mm程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	←	CM'																											





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
																	( N値~深度 ) 図																			
																	0	10	20	30	40	50														
116			花崗斑岩	緑灰	Bg	IVg	bg				2						CM'																			
				にぶい橙																																
					Cg	Vg	cg					3						CL'																		
117																																				
118				灰褐	Bg	IVg	bg											CM'																		
119	64.10	119.09		アブライト																																
				明褐灰	Cg	Vg	cg											CL'																		
				灰褐																																



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)										
														( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																				
										125.00~125.38m: 白い筋状のゆる割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。 125.38~125.70m: CL 密着度が極めて低い割れ目やゆる割れ目が10mm程度の間隔で分布。ハンマーの軽打で分離・細片化する。開口化するものも多い。 125.38m: 50°の割れ目沿いが幅10mmで径3~5mmの硬質細片状を呈する。粘土や砂は伴わない。 125.70~126.25m: CM 一部で密着度が低い割れ目やゆる割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。 126.25~127.41m: CL 一部で50~60°の割れ目沿いに径5mm前後で細片化~砂状化する。また、幅1~2mmの緑灰~灰白色の軟質粘土も挟む。硬さ「C」の岩片主体部は灰褐色で残留し、細片化~砂状化部はにぶい褐色で、全体では後者の色調が主体。127.00m以深は挟在物は分布しない。 ●127.41~127.48m: 破砕部 127.41m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。灰白色を呈する。幅0.5~1mm。 127.41~127.48m: 粘土混じり礫状部 (H) 上端50°で直線的、下端50~66°で薄曲して連続。径3~5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47m以上位のHo-1の粘土と同方向のせん断面沿いにマンガン染染を伴う。にぶい黄褐色を呈する。幅40~45mm。 127.48~128.82m: CL 40~60°の割れ目が主体で、一部で幅1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。 127.82~127.83m: 上端60°、下端61°の割れ目に囲まれ、径2~3mmの細片を含む硬質な中粒~粗粒砂状を呈する。砂状部中の細片に定向配列は見られない。粘土は伴わない。割れ目周囲の岩壁に原岩組織が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。 ●128.82~128.97m: 破砕部 128.82~128.97m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端30°で幅1~2mmの軟質な緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHo-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m: 砂混じり粘土状部 (Ho-2) 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。 128.88~128.97m: 粘土・砂混じり岩片状部 (H) 上端63°、下端62°でとも直線的に連続。下端は幅2mmの硬質な白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化を伴う。灰赤色を呈する。幅50mm。 128.97~129.95m: CL 129.11~129.26m: 風化が進み、割れ目沿いに砂状~細片状化する。マンガン汚染が見られる。 129.95~130.22m: アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。 129.95~130.79m: CM 下端部の一部で割れ目沿いに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在物は分布しない。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																					
126				アブライト	灰褐	Bg	IVg	bg	β			CM'																							
127				アブライト	にぶい橙	Cg	Vg	cg	γ																										
128				アブライト	灰褐	Cg	Vg	cg	γ			CL'																							
129				アブライト	灰赤	Eg	VIg	dg	δ																										
				アブライト	明褐灰	Cg	Vg	cg	γ																										
				アブライト	花崗斑岩	Dg			δ																										
				アブライト		Bg	IVg	bg	γ			CM																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ピット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)							
														N	値																		
		71.97   130.22	アブライト	花崗斑岩	明褐灰	Bg IVg bg γ				130.58m: 80° とこれと交差する40~50° の割れ目沿いで幅1~3mmの風化砂を挟む。粘土は伴わない。また、80° の割れ目は交差する一部の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目周囲の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 130.79~131.95m: CL 割れ目沿いに風化が進み砂状化することが多い。また、部分的に幅1mm以下の淡緑灰~灰白色粘土細脈を伴う。	CM'																						
131				花崗斑岩	にこい黄橙	Cg δ					CL'																						
		73.08   131.79	アブライト	明褐灰		Vg cg γ 2				131.79m: 55° の割れ目上端側は幅10~15mmで砂状化する。灰白色粘土細脈も伴う。 131.79~134.23m: アブライト 上端は55° の割れ目、下端は破砕部となっている。 131.95~132.89m: D 風化で硬質な砂状化が拡大し、径5~20mmの岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体の粘土化部が幅1~2mmの細脈として分布。 131.95~132.18mと132.32~132.41mは硬さ「C」の岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。 132.41~132.60m: 硬さ「C」の岩片状コア。 132.89~133.24m: CL 一部の割れ目沿いは幅1~2mm程度で砂状化の砂を挟む。 133.15~133.24m: 一部で砂状化が拡大している。 133.24~133.49m: D 砂状化が拡大し、硬質な砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。 133.49~133.75m: CL 20~30° と60~70° の割れ目が交差し、割れ目が多くなる。	D'																						
133			アブライト	明褐灰		Cg γ					CL'																						
				明褐灰		Eg δ																											
				明褐灰		Cg γ																											
134		74.08   134.23	花崗斑岩	明褐灰		Eg VIg dg 4				●133.75~133.92m: 破砕部 133.75m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45° で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない。軟質。明緑灰色を呈する。幅0.5~1mm。 133.75~133.80m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端45° で直線的に、下端35° で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」の岩片を20~30%含む。やや軟質。硬さ「D」の岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。緑灰色を呈する。幅30~40mm。 133.80~133.92m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35°、下端50° でともに波打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布する。上端側が緑灰色、下端側がオリブ灰色を呈する。幅100mm。 133.92~134.15m: 硬さ「D」主体。 ●134.15~134.23m: 破砕部 134.15~134.19m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜65° で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質。下端側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。上端側はオリブ灰色。中央部は明オリブ灰色。下端側は暗オリブ灰色で、3色の縞状を呈する。幅20mm。 134.19~134.23m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端65° で直線的に、下端はコアが砕けているため不明 (50° の可能性あり)。径5~20mmの岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着する。オリブ灰色を呈する。幅30mm以上。 134.23~134.77m: CL アブライト下端境界の直下部である。割れ目はやや多いが変化は伴わない。 134.23~134.33m: アブライトと花崗斑岩が混在した岩相を呈する。緑灰色を呈する。 134.77~135.34m: D 土砂状~径10mmの細岩片状部が主体。	CL'																						
			花崗斑岩	明褐灰		Cg IVg cg γ 2					D'																						
				明褐灰		Vg δ 3																											
				明褐灰		Eg VIg dg δ																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															0	10	20	30	40												50				
							Eg	δ	3	135.34~145.65m: CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部。 硬さ「B」は135.34~136.50mに小さく分布。一部で密着度の低い潜在割れ目を含む。 136.50~136.64m, 137.44~137.60m, 139.87~140.04m間は、コア長15cm前後で、割れ目沿いに風化が広がり径5~10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、硬さ「E」となる。  136.40m以深は径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。 136.54m: 35°で幅10~15mmのアブライトが径5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。	0	50	100																						
136				花崗斑岩			Vg	cg					D'																						
							Bg	γ	2																										
							Eg	dg	δ		3																								
137							Vg	cg	γ	2																									
							Eg	dg	δ	3																									
138							Vg	cg	γ	2			CL'																						
		77.75	138.40				Eg	dg	δ	3																									
139							Vg	cg	γ	2																									
		78.32	139.20				Eg	dg	δ	3																									
							Vg	cg	γ	2																									
							Eg	dg	δ	3																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
													( N値~深度 ) 図																		
				花崗斑岩					140.04~145.65m: 幅10cmを超える砂礫状の風化部は分布しないが、割れ目沿いに幅1~5mm程度で径1~3mmに砂状~片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い潜在割れ目が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずかである。	0				0	10	20	30	40	50												
141	79.84	141.35		アブライト		V <sub>E</sub>			141.10~141.18m: 40°の割れ目沿いに砂状化する。径5~10mmの硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。 141.35~141.96m: アブライト 上下端とも機械割れのため不明。	5 (0)																					
142	80.27	141.96		褐灰		C <sub>E</sub>	c <sub>E</sub>	γ	2	4 (0)																					
143				花崗斑岩					141.96~142.23m: 互いにほぼ直交する60°と30°の割れ目が細かく交差し、径5~10mm主体に細片化する。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部幅1~2mm程度で砂状化する。粘土は伴わない。 142.91~144.90m: 割れ目間隔は上下位に比べやや広くなるが、密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目を多く含む。	6 (0)																					
144						W <sub>E</sub>			143.57~143.70m: 上端60°、下端70°の割れ目沿いに緑泥石化が強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°で幅5~10mmの石英を脈状に伴う。	6 (0)																					
						V <sub>E</sub>																									







標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 → cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
														( N 値 ~ 深度 ) 図	( N ) 値															
		156	花崗斑岩	明褐色						155.00~160.00m: CL 割れ目沿いは暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく緑灰色を呈し、幅2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。				0	50															
				Cg							155.89m: 88° の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟在する。																			
				灰褐色							156.25m: 75~80° で幅7~8mmが径2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。																			
		157		Vg	cg	γ					156.72m: 75~80° で幅1~10mmの硬質な砂状部が径1~2mmの花崗斑岩の扁平礫状部を挟んで上下位方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には鉄肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。156.67mには高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。同様な暗灰色の細粒部は様々な方向の割れ目を充填している。																			
		158		Dg						158.00~158.20m: 径5~10mmの礫状部と硬質な砂状部からなり、砂礫状を呈する。																				
		159	緑灰色							159.06~159.33m: 割れ目沿いに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が幅2~20mmで分布する。160.00mにかけて岩芯まで暗緑灰色化する。																				
				Cg						159.78m: 70~80° で幅1~10mmの方解石脈が膨縮しながら連続する。																				
		93.03	160.00	Dg																										

孔番 : H27-B-2

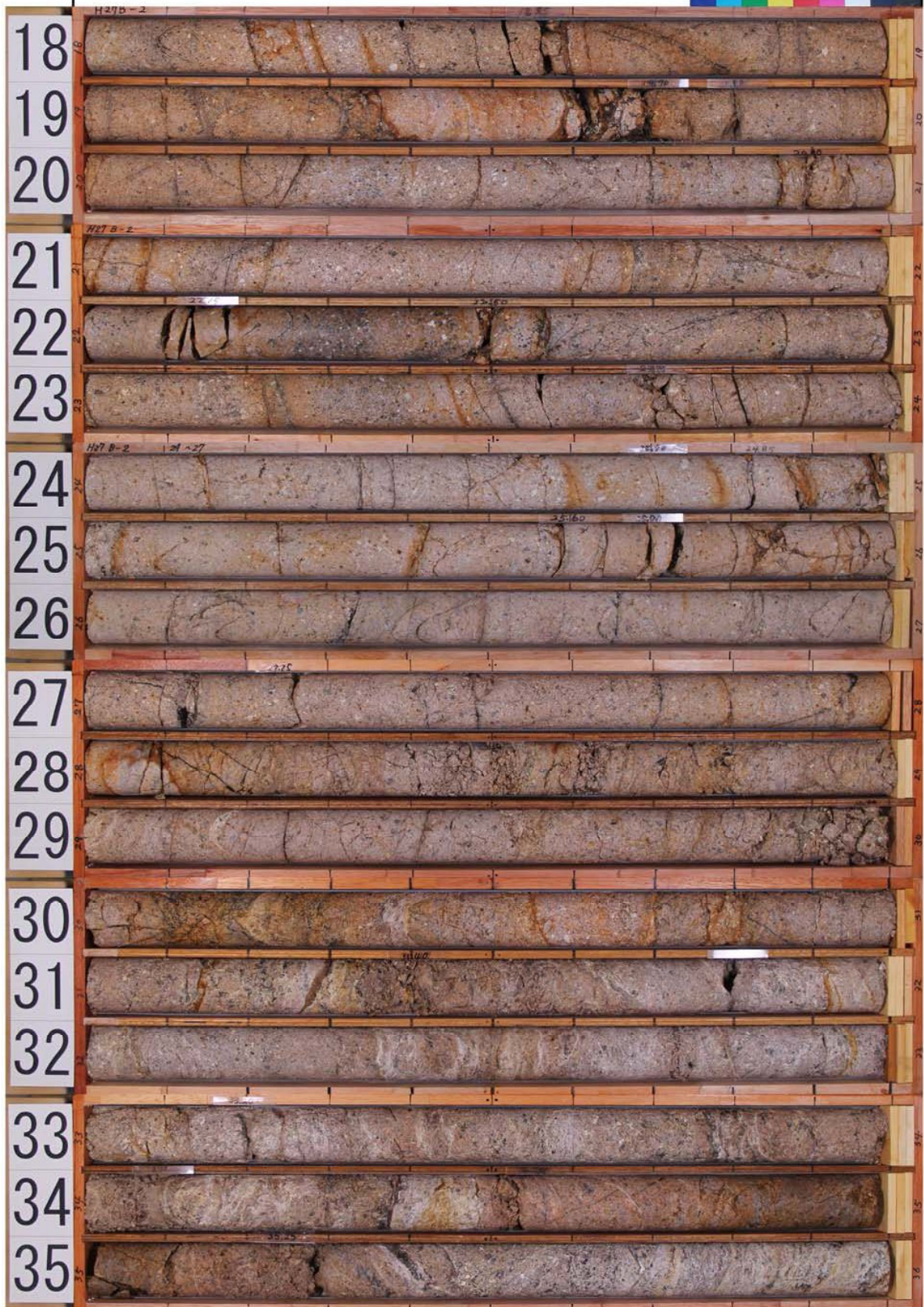
深度 0.00m ~18.00m





孔番 : H27-B-2

深度 18.00m ~ 36.00m





孔番 : H27-B-2

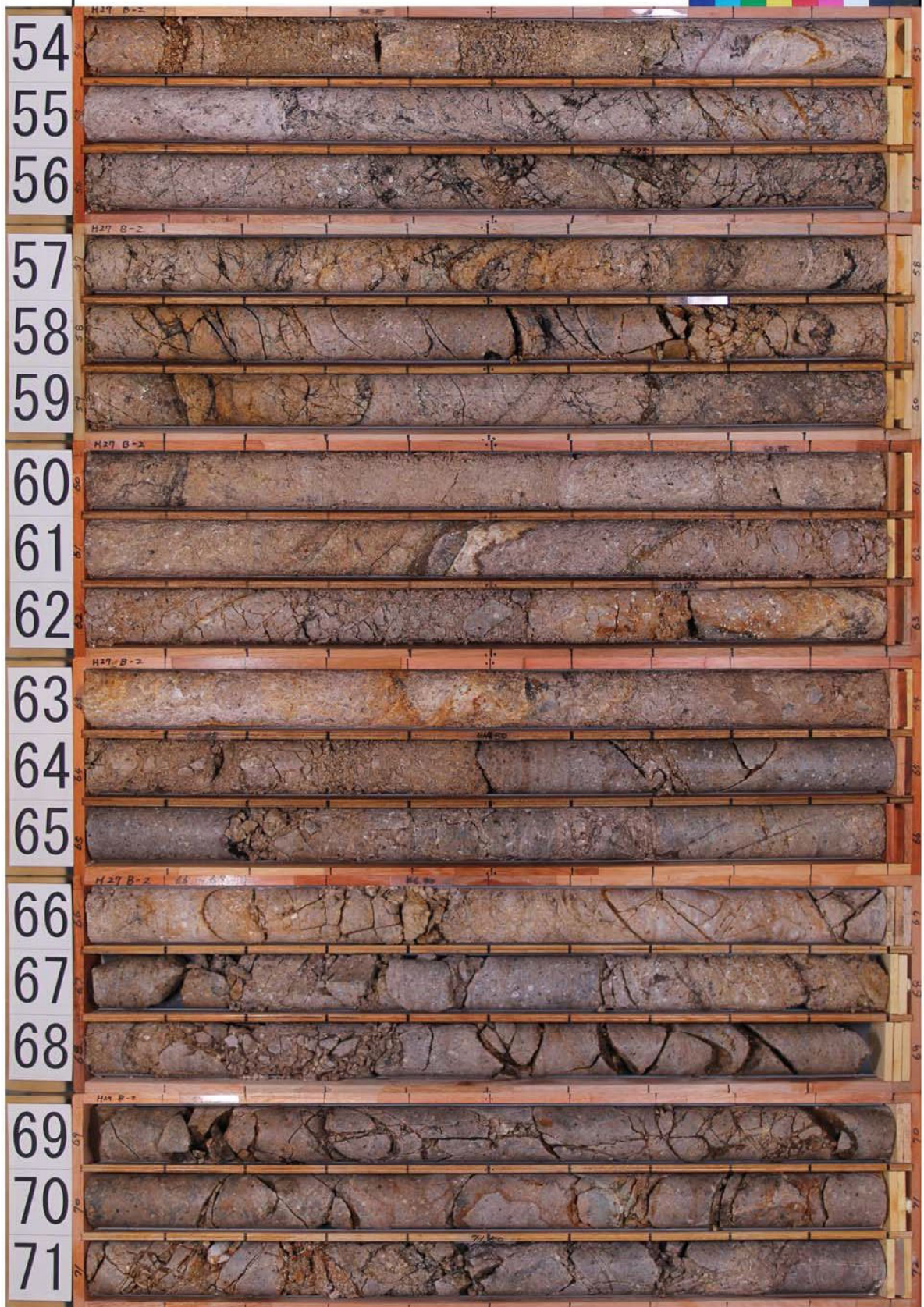
深度 36.00m ~ 54.00m





孔番 : H27-B-2

深度 54.00m ~ 72.00m





孔番 : H27-B-2

深度 72.00m ~ 90.00m





孔番 : H27-B-2

深度 90.00m ~ 108.00m





孔番 : H27-B-2

深度 108.00m ~ 126.00m





孔番 : H27-B-2

深度 126.00m ~ 144.00m





孔番 : H27-B-2

深度 144.00m ~ 160.00m





余白

H24-B14-2

余白



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
													0	10	20	30	40												50										
				盛土	明褐 褐灰				5.23~5.29m: 有機物混じり砂を挟む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を含む。全体に若干有機質である。																														
6		2.35 6.66		礫質砂	褐灰				6.66~8.39m: 礫質砂 6.66~6.82m: 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。 6.82~8.08m: 細~粗粒砂からなり、7.43m以深ではシルトが混じる。全体に径2~5mmの細礫が混じる。細礫は角~亜角礫を主とする。礫種は花崗斑岩、アブライト、石英からなる。 6.82~7.65m: 上部はシルト質、下部は礫質となる。 7.10m付近まで径5~10mm程度の石英の細礫を多く含む。炭化物も礫状に含む。 7.10~8.08m: 径5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。 7.30m付近、未分解の植物片を含む。  7.70m付近、炭化物を含む。																														
7		1.13 8.39		砂混じり有機質シルト	灰				8.08~8.39m: 砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深は若干の有機物を含む。																														
8		0.82 8.83		有機物混じり砂	黒褐 褐灰				8.39~8.83m: 砂混じり有機質シルト 8.39~8.53m: 径1.5cmの花崗岩頭の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。 8.53~8.83m: 傾斜45~50°で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。  8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。 8.83~9.54m: 有機物混じり砂 8.83~9.10m: 有機物混じり砂粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満含む。少量の炭化物を含む。 8.90~8.97m: 生木を含む。 9.10~9.26m: 有機物に富み、一部未分解の繊維が分布する。 9.13~9.15m間は極細粒砂を薄層状に挟む。下部は粒径がやや粗く、砂質シルト~シルト質砂状を呈する。 9.26~9.54m: 細粒砂を主とするが不均質で、径0.5~1cmの石英角礫を含み、粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解繊維も少量含む。 9.54~11.12m: 砂礫 径2~50mmの花崗斑岩礫が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。 9.54~9.71mに径17cmの玉石を含む。																														
9		0.31 9.54		砂礫	黄																																		





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( ) 図 ( N値~深度 )					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
													0	10	20	30	40												50					
16	-4.42	16.24		砂礫					15.08~15.17m: 花崗斑岩の玉石を含む。 15.42~15.50m: 風化花崗斑岩の玉石を含む。 15.70~16.00m: 花崗斑岩の岩塊を含む。 16.24m: 砂礫と花崗斑岩の境界は密着しており、傾斜45°程度を示す。	0 50 100																								
17				褐灰					16.24~16.65m: 花崗斑岩斑晶は径3~8mmの石英、長石を主とし、径2~5mmの黒雲母を含む。石基は優白色である。 16.24~18.08m: 強風化・変質部で、全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。 16.24~16.94m: 傾斜30~50°の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。下位に比べて原岩組織を残す。 16.94~18.04m: 割れ目が不明瞭となる。	0 (0)																								
18				灰白	Eg		dg	δ	3	17.30~17.58m: 原岩組織が不明瞭で、指圧で砂混じりシルト状に崩せる。	0 (0)																							
19				明褐灰	Dg		cg	γ	3	18.04~18.68m: 割れ目沿いの変質が著しく、硬質部を径5~20mmの礫状に残す。軟質部は針貫入可能である。傾斜50~70°及び90°程度の割れ目跡に白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。 18.33~18.37m: 強く変質する。上端40°、下端は不明瞭である。	0 (0)																							
19			灰白	Eg		dg	δ	4	18.68~19.89m: 変質が著しく、割れ目と原岩組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。 19.00~19.25m、19.55~19.89m: 網目状の変質粘土は淡黄褐色を呈する。 19.19~19.50m: 傾斜75°で湾曲して幅1~2mmのシルト・砂混じり粘土脈が分布し、粘土脈に沿って幅2cmが灰白~淡黄褐色を呈する。	0 (0)																								
				Dg				3	19.89~20.29m: 2~10mm程度の間隔で網目状に割れ目が発達し、変質粘土をフィルム状~幅1mmで挟む。岩片はやや軟質である。																									



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																								
															( N値~深度 ) 図																																																																																																																																																							
26			花崗斑岩	褐灰	Dg	Vg	dg	γ	2	25.88~26.62m: 土砂~礫状を呈する。岩片は径5~15mm程度のもが多く、25.88~26.12m間は径5~50mmのものを主体とする。基質はシルト混じり中粗砂で、不規則にマンガンに連続されている。指圧で変形するほど軟質である。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																		
27																																			花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	2	26.62~27.62m: 5~15mm間隔で網目状に割れ目が発達し、割れ目沿いは土砂~細片状を呈する。 27.28~27.62m: 上位に比べて割れ目沿いの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状を呈する。 27.47~27.62m: 傾斜60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。 27.62m: 傾斜65°で幅1~2mmの黄灰色砂混じりシルトを不連続に挟む。シルトの周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 27.62~27.97m: 網状に割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。 27.92~28.21m: 傾斜60~75°の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、傾斜20~25°の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。 28.21~28.50m: 2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、全体に劣化する。 28.36~28.45m: 傾斜30°程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達する。 28.45~28.50m: 上端55°、下端50°で原岩組織が不明瞭となる。 ●28.50~28.66m: 破砕部 28.50~28.51m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端50°、下端50°。径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm。 28.51~28.53m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。径10mm以下の岩片主体で岩片間に幅1~2mmの黄灰色粘土を伴う。にぶい黄橙色を呈する。幅23~30mm。 28.53~28.66m: 粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にぶい黄橙色を呈する。幅120mm。 28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。 29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。 29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む 29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																																																																																																																		
28																																																																						花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	2	27.62~27.97m: 網状に割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。 27.92~28.21m: 傾斜60~75°の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、傾斜20~25°の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。 28.21~28.50m: 2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、全体に劣化する。 28.36~28.45m: 傾斜30°程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達する。 28.45~28.50m: 上端55°、下端50°で原岩組織が不明瞭となる。 ●28.50~28.66m: 破砕部 28.50~28.51m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端50°、下端50°。径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm。 28.51~28.53m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。径10mm以下の岩片主体で岩片間に幅1~2mmの黄灰色粘土を伴う。にぶい黄橙色を呈する。幅23~30mm。 28.53~28.66m: 粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にぶい黄橙色を呈する。幅120mm。 28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。 29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。 29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む 29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																																																																															
29																																																																																																								花崗斑岩	灰褐	Dg	Vg	cg	γ	2	28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。 29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。 29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む 29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																																													
29																																																																																																																																								花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	dg	δ	4	28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。 29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。 29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む 29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0	50	100		0	10	20	30	40	50													
29																																																																																																																																																																						
29				花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	cg	3	28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。 29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。 29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む 29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																		
29																																	花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	cg	3	28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。 29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。 29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む 29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																																																																																																																					
29																																																														花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	cg	3	28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。 29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。 29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む 29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																																																																																								





























標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位試験 (孔内水平応力)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																								
															0	10	20	30	40												50																																							
		86	* * * * *	ア プ ラ イ ト	褐 灰	Bg	bg	β	2	3	85.06~89.74m: 傾斜30~40°の割れ目が5~30cm間隔で分布し、長柱状を主体とする。 85.14~85.64m: 割れ目面の剥離は認められない。 85.28m: 傾斜35°で幅1.5mmの石英脈を挟む。	0 50 100	CL'																																																									
		87									IIg																										85.59~86.28m: 傾斜60~70°の密着割れ目が発達し、それに沿って脱色する。一部は開口し、細片化を伴う。																																	
		88									IVg																										85.96~87.52m: 傾斜80°以上で湾曲する割れ目が複数分布する。割れ目沿いに細片化~細粒化する。86.58~87.00m間は岩質劣化部を伴う。																																	
		89									IIg																										86.50~86.58m: 高角度割れ目面に柱状の石英が晶出する。																																	
		88									IIIg																										87.61m以深、傾斜40~60°の割れ目が多くなる。 87.61~88.31m: 傾斜40~60°の割れ目や潜在割れ目が分布し、それらに沿って脱色する。割れ目面はオリブ灰色を帯びる。 87.73m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。										CH'																							
		89									IIg																										88.22m: 傾斜43°の割れ目は暗オリブ灰色を呈し、柱状の石英が晶出する。 88.22~88.30m: 微細な有色鉱物を多く含み、コアは暗色を帯びる。																																	
		89									IVg																										88.90~89.09m: 傾斜45°程度の割れ目が0.5~3cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化する。わずかに脱色が認められる。 89.09m、89.42m、89.55m: 傾斜43~50°の割れ目に径0.3~0.5mmの石英が晶出する。割れ目面は緑灰色化する。																																	
		89									IIg																																																											
		89									IIIg																																																											
		89									IIg																																																											
		89									IVg																																	89.74~90.56m: 傾斜35~55°の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは一部で細片状を呈する。			CM'																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図					原位置試験 (孔内水平応力)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
													0	10	20	30	40												50									
91			アブライト		褐灰		IV <sub>g</sub>	β 2	90.08~90.56m: 傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 90.44m: 傾斜45° で幅3~8mmの石英脈を挟む。	1	CM'																											
							V <sub>g</sub>		91.08~91.13m: 細かい割れ目が発達し、変質も認められ、細礫状を呈する。 91.13m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	9																												
92							B <sub>g</sub>		IV <sub>g</sub>	bg		91.48~91.63m: 傾斜10~50° の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。 91.53~93.00m: 傾斜85~90° で幅5~10mmの石英脈が連続して分布する。	6																									
93							III <sub>g</sub>		IV <sub>g</sub>	6		92.13m: 傾斜40° の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。	6																									
94							C <sub>g</sub>		V <sub>g</sub>	cg		93.64m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	6																									
			B <sub>g</sub>	IV <sub>g</sub>	bg	94.10~94.63m: 傾斜10~45° 程度の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。 94.24m: 傾斜45° で幅1~2mmの灰白色砂質粘土を挟む。 94.34m、94.37m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	7																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																
															( N 値 ~ 深度 ) 図																																															
96			[Pattern]	褐灰	Bg	Vg	cg	2			95.07~96.03m: 傾斜10~50° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	0 50 100	CL'																																																	
											95.34~95.43m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。																																																			
											95.36m: ほぼ鉛直な割れ目に幅1mmの灰白色粘土を挟む。																																																			
											96.38~96.54m: 傾斜45° 程度の割れ目が発達し、主に礫状を呈する。																																																			
											96.44~96.64m, 96.80~96.97m: 変質が認められ、やや軟質である。																																																			
											96.54~96.64m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。																																																			
											97																							アブライト	明褐灰	Dg	Vg	cg	3			97.50~98.09m: 傾斜45~70° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	0 50 100	CH'																		
																																										97.83~97.86m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。																				
																																										98.28~100.40m: 不規則な割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。																				
											98																							アブライト	褐灰	Bg	Vg	cg	2			99.61~99.66m: 細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。	0 50 100	CL'																		
99.94m: 傾斜25° で幅5mmの橙色のかり長石が脈状に分布する。																																																														
99.61~99.66m: 細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。																																																														
99			アブライト	明褐灰	Bg	Vg	cg	2			99.61~99.66m: 細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。	0 50 100	CL'																																																	
											99.94m: 傾斜25° で幅5mmの橙色のかり長石が脈状に分布する。																																																			
											99.61~99.66m: 細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。																																																			

